

---

# 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

---

平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」  
研究成果報告書

平成 31 年 3 月  
学校法人名 学校法人関西大学  
大 学 名 関西大学  
研究組織名 経済実験センター  
研究代表者 小川 一仁  
(関西大学社会学部教授)

## 目次

第1章 はしがき	
第2章 研究成果報告書概要.....	1
研究の概要.....	5
(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要	
(2) 研究組織	
1. 研究代表者の役割	
2. 各研究者の役割分担や責任体制の明確さ	
3. 研究プロジェクトに参加する研究者の人数	
4. 大学院生・PD 及び RA の人数・活用状況	
5. 研究チーム間の連携状況	
6. 研究支援体制	
7. 共同研究機関等との連携状況	
(3) 研究施設・設備等.....	7
1. 研究施設の面積	
2. 主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数	
(4) 研究成果の概要	
・優れた成果があがった点	
・研究成果のまとめ	
・課題となった点	
・自己評価の実施結果と対応状況	
・外部（第三者）評価の実施結果と対応状況	
・研究期間終了後の展望	
・研究成果の副次的効果	
キーワード.....	15
研究発表の状況	
・雑誌論文	
・図書	
・学会発表	
・研究成果の公開状況	
シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等.....	48
その他の研究成果等.....	55
「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応.....	59

### 第3章 別紙資料

#### 目次

1. 内部評価資料（平成27年、平成30年）
2. 外部評価資料（平成28年、平成30年）
3. 学外実験（山形県西川町）新聞記事
4. 公開講座案内（平成28年～平成30年）

## 第 1 章 はしがき

本書では、平成 26 年 4 月から平成 31 年 3 月まで、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として遂行された「高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成」の研究成果を報告する。

顕著な研究成果としては 2 つある。1 つ目は、経済実験センターを開放型経済実験拠点として立ち上げ、学内外の研究者に容易に利用できる拠点を構築し、継続的な運営を行うめどをつけたことである。本センターには世界有数の実験参加者プール(高齢者を含む社会人約 1,000 名、学生約 2,000 名)と、年間 100 日を超える稼働率を誇る経済実験室が存在している。このような大規模な拠点を短期間に整備し、なおかつ学内外の研究者に開放している拠点は国内では非常に少ない。

2 つ目は本センターが生み出した研究成果である。社会人の年齢や認知能力と経済的意思決定の関連を詳細に分析した研究は海外の査読付き学術誌に掲載されつつある。他にも、本センターの実験室や参加者プールを利用した研究が海外の査読付き学術誌に掲載されている。これらは、本センター自体の研究水準の高さを示すだけでなく、日本における経済実験の発展を支える重要なインフラストラクチャーとなっていることを示している。

また、われわれは、実験室で得られた社会人・高齢者の行動様式を踏まえたフィールド実験を実施し、成果を上げている。このようなフィールド実験を実施できる研究機関は日本では大変少なく、本センターの研究水準の高さを示すもう一つの証左となっている。

事業終了後は、本センターの施設・設備・人的資源をもとに、これまでの研究をまとめた上で、研究水準の維持と向上に努める。特に、海外の研究機関や国内の地方自治体との連携を深めることで特色ある研究拠点としての飛躍を遂げることを企図している。

平成 31 年 3 月 31 日

関西大学経済実験センター長(社会学部教授)

小川一仁

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

**平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」  
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 学校法人 関西大学      2 大学名 関西大学

3 研究組織名 経済実験センター

4 プロジェクト所在地 大阪府吹田市山手町 3-3-35

5 研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
小川 一仁	ソシオネットワーク戦略研究機構・社会学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 17 名

9 該当審査区分 理工・情報      生物・医歯      人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
小川 一仁	ソシオネットワーク戦略研究機構・社会学部・教授	高齢者の個人的意思決定、協力行動の測定、特徴付け、政策的応用及び社会シミュレーション	A01 班リーダー 実験ラボラトリ設計責任者、時間選好・独裁者ゲーム実験責任者、経済学と社会シミュレーションの接合領域の文献調査
松下 敬一郎	ソシオネットワーク戦略研究機構・経済学部・教授	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	A02 班リーダー 実験ラボラトリ設計副責任者 米国 cog-econ との連携
本西 泰三	ソシオネットワーク戦略研究機構・経済学部・教授	高齢者の個人的意思決定、協力行動の測定、特徴付け、政策的応用及び社会シミュレーション	テーマリーダー、政策面でのアドバイザー
小林 創	ソシオネットワーク戦略研究機構・経済学部・教授	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	A03 班リーダー 参加者データ管理責任者、囚人のジレンマ・公共財実験責任者

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

長久 領彦	ソシオネットワーク戦略研究機構・経済学部・教授	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	理論面でのアドバイザー
座主 祥伸	ソシオネットワーク戦略研究機構・経済学部・准教授	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	独裁者ゲームなどの実験責任者
舟場 拓司	社会学部・教授	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	リスク回避度実験のサブリーダー
村田 忠彦	ソシオネットワーク戦略研究機構・総合情報学部・教授	高齢者の意思決定と社会シミュレーション	A04 班リーダー エージェントの実装
稲葉 美里	ソシオネットワーク戦略研究機構・研究員 (前非常勤研究員)	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	実験室実験・野外経済実験の指揮・参加者データの管理
(共同研究機関等) 小田 秀典(宗兵衛)	ソシオネットワーク戦略研究機構・京都産業大学 経済学部・教授	高齢者の意思決定と社会シミュレーション	ラボラトリ設計、シミュレーション設計のアドバイザー
尾崎 祐介	ソシオネットワーク戦略研究機構・早稲田大学 商学学術院・准教授(前大阪産業大学経済学部・准教授)	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	高次リスク回避度実験のリーダー
瀧 俊毅	神戸大学 経済経営研究所・教授	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	リスク回避度実験のリーダー
七條 達弘	ソシオネットワーク戦略研究機構・大阪府立大学 第1学群社会科学系・教授	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	囚人のジレンマ、公共財実験の責任者
奥井 亮	ソシオネットワ	各種実験、質問紙調査	計量分析全般の責任者

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

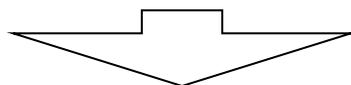
	一ク戦略研究機構・ソウル大学・副教授(前上海紐育大学・副教授)	の計量経済学的分析	
高橋 広雅	ソシオネットワーク戦略研究機構・広島市立大学 国際学部・教授(前准教授)	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	中山間地域での実験アドバイザー
森 知晴	ソシオネットワーク戦略研究機構・立命館大学 総合心理学部・准教授	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	実験室実験・野外経済実験の指揮
川村 哲也	ソシオネットワーク戦略研究機構・日本経済大学 経営学部・講師	経済実験室の管理・運営および高齢者の個人的意思決定	実験室実験・野外経済実験の指揮・データ解析

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 29 年 10 月 1 日)



新

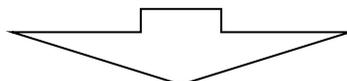
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
立命館大学 総合心理学部・准教授	立命館大学 総合心理学部・准教授	森 知晴	実験室実験・野外経済実験の指揮

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



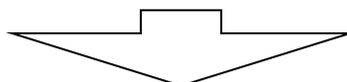
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	関西大学ソシオネットワーク 戦略研究機構・非常勤研究 員	稲葉 美里	実験室実験・野外経 済実験の指揮・参加 者データの管理

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	日本経済大学 経営学部・講師	川村 哲也	実験室実験・野外経 済実験の指揮・データ 解析

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

## 11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

### (1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

日本では高齢化率が急速に高まっている。高齢者の中には経済に関する選択そのものが難しい場合や、誤った選択をしてしまう場合がある。そのため、高齢者がより望ましい経済行動を行うための制度を設計することは、社会的要請が高いと考えられる。

しかしながら、日本には高齢者や社会人の経済行動に関するデータを継続的に収集する研究機関が存在しない。日本において高齢者が当分の間、経済的に重要な役割を果たすことを考えると、こういった人々の意思決定を解明することの重要性は言を俟たない。

本プロジェクトの目的は大きく三つある。最初に、(1)本学内に経済実験ラボラトリ(実験室)を設置し、継続的に運営を行うことである。このような試みはすでに、大阪大学、京都産業大学、早稲田大学などで進んでいるが、本学では以下の目的(2)および(3)に見られる特徴を備えるラボラトリを運営し、差別化を図っている。

次いで、(2)実験室を学外開放(オープンラボラトリ化)することである。経済実験は実施の準備が膨大で、個別で実施するのは難しい。そこで実験希望の学内外の研究者に対し、実験実施機会を提供する。これを通じて、本学を実験経済学の国内外の拠点とする。また、オープンラボラトリ化は本プロジェクトに関わる研究者の個別研究の促進、研究者間での共同研究の推進を可能にする。

最後に(3)高齢者の意思決定のデータを収集することである。高齢者を中心とした社会人参加者を広く学外から募集して、経済実験や質問紙調査を実施する。それをを用いて、高齢者の意思決定の特徴を明らかにし、高齢者がより望ましい選択を行うための制度の設計、検討、導入を行う。

計画概要は以下の通りである。1-4年目に社会人(高齢者を含む)・学生の参加者を募り、各種経済実験を実施する。5年目に社会人(高齢者を含む)の経済行動を盛り込んだシミュレーションを実施し、彼らの経済的選択のありかたを解明する。また、実験結果から社会人の経済行動における特徴を抽出し、政策提言に繋げる。

### (2) 研究組織

#### 1 研究代表者の役割

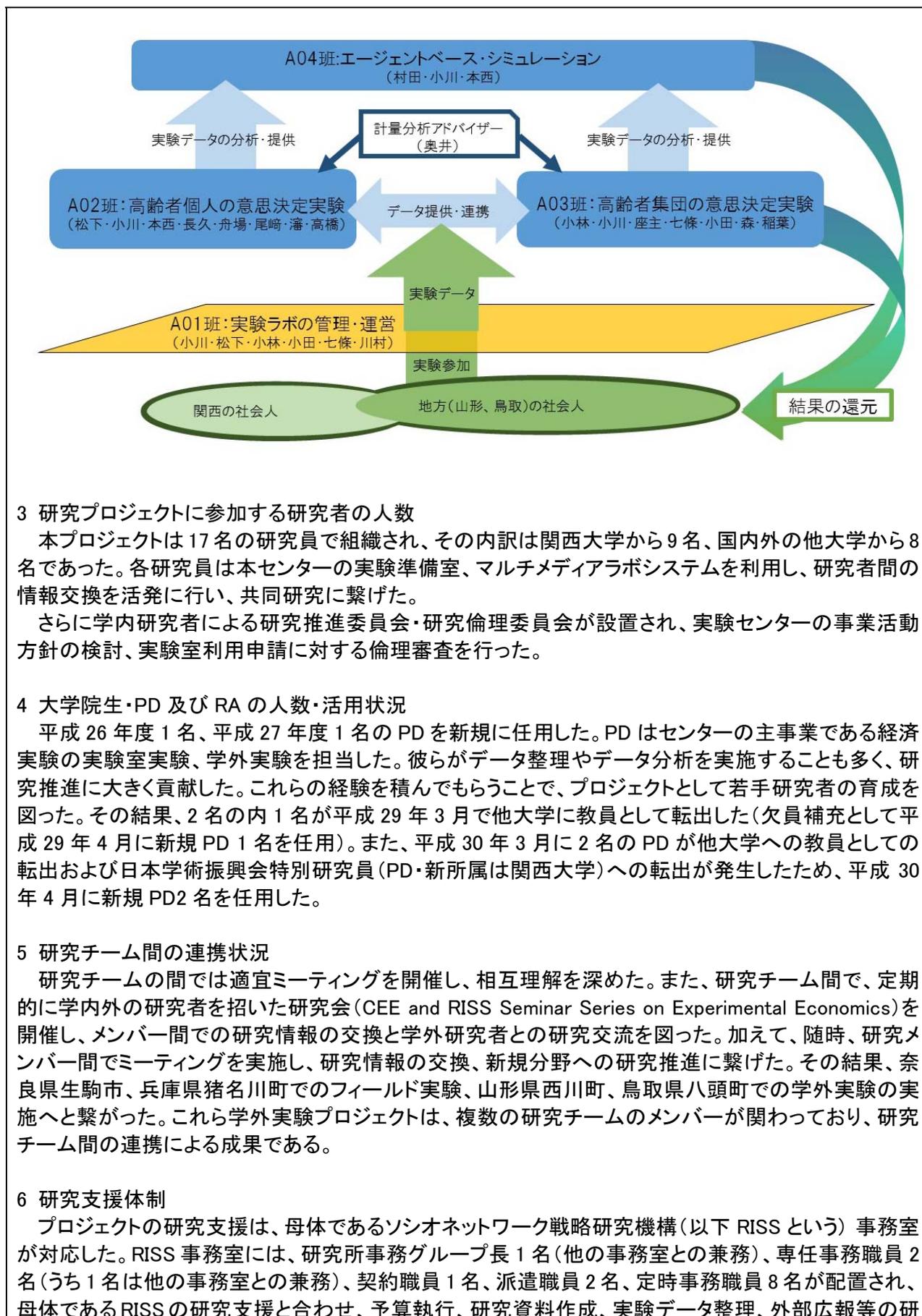
研究代表者は本プロジェクトの研究目的を遂行するため、研究者及び研究チーム間で活発なコミュニケーションが行われるように研究メンバーの統括・管理を行った。具体的には、研究推進委員会、研究会やワークショップ、国内向けの会議、国際会議の開催等、様々な機会を設け、共同研究の基盤構築と研究方針の確認、意思統一を図った。

さらに、経済実験や研究会実施において、研究員と外部(他大学・自治体・企業など)との仲介役を担った。

#### 2 各研究者の役割分担や責任体制の明確さ

本プロジェクトは、研究チームを4班に分け、研究を進めた。平成26年9月に事業開始、平成27年2月から社会人向けの経済実験を開始した。実験回数を重ねるなかで、A01班、A02班、A03班の研究連携を強めた。A04班との連携は、平成27年度、平成28年度は、A02班、A03班のデータ集約、データ分析の整理と同時進行で行い、本格的な始動を平成28年度末から行った。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035



### 3 研究プロジェクトに参加する研究者の人数

本プロジェクトは17名の研究員で組織され、その内訳は関西大学から9名、国内外の他大学から8名であった。各研究員は本センターの実験準備室、マルチメディアラボシステムを利用し、研究者間の情報交換を活発に行い、共同研究に繋がった。

さらに学内研究者による研究推進委員会・研究倫理委員会が設置され、実験センターの事業活動方針の検討、実験室利用申請に対する倫理審査を行った。

### 4 大学院生・PD 及び RA の人数・活用状況

平成26年度1名、平成27年度1名のPDを新規に任用した。PDはセンターの主事業である経済実験の実験室実験、学外実験を担当した。彼らがデータ整理やデータ分析を実施することも多く、研究推進に大きく貢献した。これらの経験を積んでもらうことで、プロジェクトとして若手研究者の育成を図った。その結果、2名のうち1名が平成29年3月で他大学に教員として転出した(欠員補充として平成29年4月に新規PD1名を任用)。また、平成30年3月に2名のPDが他大学への教員としての転出および日本学術振興会特別研究員(PD・新所属は関西大学)への転出が発生したため、平成30年4月に新規PD2名を任用した。

### 5 研究チーム間の連携状況

研究チームの間では適宜ミーティングを開催し、相互理解を深めた。また、研究チーム間で、定期的に学内外の研究者を招いた研究会(CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics)を開催し、メンバー間での研究情報の交換と学外研究者との研究交流を図った。加えて、随時、研究メンバー間でミーティングを実施し、研究情報の交換、新規分野への研究推進に繋がった。その結果、奈良県生駒市、兵庫県猪名川町でのフィールド実験、山形県西川町、鳥取県八頭町での学外実験の実施へと繋がった。これら学外実験プロジェクトは、複数の研究チームのメンバーが関わっており、研究チーム間の連携による成果である。

### 6 研究支援体制

プロジェクトの研究支援は、母体であるソシオネットワーク戦略研究機構(以下 RISS という) 事務室が対応した。RISS 事務室には、研究所事務グループ長1名(他の事務室との兼務)、専任事務職員2名(うち1名は他の事務室との兼務)、契約職員1名、派遣職員2名、定時事務職員8名が配置され、母体である RISS の研究支援と合わせ、予算執行、研究資料作成、実験データ整理、外部広報等の研

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

究支援を行った。母体である RISS の運営委員会では、大学側から副学長、法人側から常任理事が構成員となっており、本センターの活動内容を含めた RISS 事業計画の検討が行われ、大学による研究支援体制が敷かれた。

#### 7 共同研究機関等との連携状況

経済実験センターの上位組織である RISS では、高知工科大学フューチャー・デザイン研究センターとの連携協定の締結にあたり、本センターとの連携(実験の共同実施、ワークショップの開催等)が協力事業とされた。また、平成 31 年 2 月に、山形県西川町との連携協定が締結され、韓国・仁川大学社会経済研究センターとの連携協定も交渉を開始した。今後、他大学・研究機関・自治体との連携を一層深め、研究のフィールドを実験室だけでなく、実社会に広げていく。

### (3) 研究施設・設備等

#### 1 研究施設の面積

本センターの母体である RISS の建物に以下の実験・研究スペースを確保した。なお、当建物はセキュリティカードの利用により 24 時間 365 日利用可能な研究環境を整備した。

経済実験ラボラトリ室	120.00m <sup>2</sup>	実験ラボ準備室	39.60m <sup>2</sup>	
共同研究室 1	19.80m <sup>2</sup>	共同研究室 2	19.80m <sup>2</sup>	(合計 199.20m <sup>2</sup> )

また、以下の研究スペースは本センターの母体である RISS と共同で利用した。

マルチメディア・ラボ	120.00m <sup>2</sup>	
サーバ室 ※	19.80m <sup>2</sup>	(合計 139.80m <sup>2</sup> )

※経済実験ラボラトリデータ管理システム及びサーバ・ネットワーク機器を設置

#### 2 主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数

経済実験ラボラトリデータ管理システム(実験データ処理関係設備)

37,416 時間(平成 26 年 12 月 19 日設置～平成 31 年 3 月 31 日まで常時稼働。設置日、法定停電日 5 日間を除く)実験参加者の常時募集、研究者のデータベースの利用のため、24 時間稼働。

### (4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

本プロジェクトの目的と照らし合わせつつ、最初に年度別の成果概要を説明する。5 カ年のプロジェクトを総括すると、経済実験室の設置と運営のノウハウを蓄積した時期(平成 26～27 年度)、社会人・高齢者のデータ収集を本格的に開始する(平成 27 年度以降)とともに、学内外の社会科学分野の研究者に実験室を開放した時期(平成 27 年度後半以降)、データを用いて研究報告、研究論文を公表する時期に分けられる(平成 29 年度以降)。

#### [1 年目(平成 26 年度)]

平成 26 年 12 月に「経済実験室」が完成、同月中旬から実験室の運用を開始した。採択後すぐに研究推進委員会を設置し、PD の雇用や実験室利用規約の制定、研究倫理委員会の設置を行った。平成 27 年 2～3 月に学生 40 名、社会人 79 名の参加者でプロジェクト関連の経済実験を実施した。当初収集を始めたのは、社会人が他者一般に対してどのような信頼行動を示すかに関するデータである。平成 27 年 3 月にワークショップ「日本における経済実験環境のコンソーシアム化をめざして」を本学で開催し、オープンラボラトリ化に関する議論を深めた。

以上のように 1 年目は、研究目的(1)と(2)に関して、研究実施上の基盤を構築する成果を得た。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

## [2 年目(平成 27 年度)]

プロジェクトのデータ収集と、オープンラボラトリ化に伴った他大学の研究者の経済実験を実施した。その結果、全 110 回の経済実験を実施した。(平成 27 年度の参加者数:学生延べ 1,302 名、社会人延べ 726 名) このように高頻度で稼働している経済実験室は世界的にも珍しい。海外の研究者の受け入れとして、平成 27 年 7 月に海外から著名な実験経済学者 4 名を招聘し、本学と京都大学で国際会議「RISS 13th International Conference & CEE 1st International Conference」を行った。その他「CEE and RISS seminar series on experimental economics」を定期的開催し、学内外の研究者との研究交流を進めた。

2 年目の成果と研究目的の関連を述べる。目的(1)について、経済実験を持続的に実施できる体制を整えた。(2)について、学外プロジェクトメンバーを中心に学外者の利用を推進した。(3)については社会人の経済的意思決定に関するデータを収集するとともに、参加者を募るノウハウを蓄えられた。

## [3 年目(平成 28 年度)]

研究目的(1)については学内外からの経済実験希望者を受け入れることで、1 年の間に 264 回の実験を実施できた。稼働率については世界的にも有数の規模であると推察される。

オープンラボラトリについては、学外のプロジェクトメンバー(七條、高橋)はもとより、高知工科大学、慶應義塾大学、桃山学院大学、ニース大学(フランス)などの研究者(いずれもプロジェクトメンバー外)が継続的に利用した。

昨年同様「CEE and RISS seminar series on experimental economics」を定期的開催し、学内外の研究者との研究交流を進めた。

以上の実績は研究目的(2)に該当し、実験経済学の研究拠点として着実な成長を遂げた。

校内実験室での経済実験を継続的に実施した。加えて山形県西川町(実験回数 13 回、参加者延べ 148 人)、京都府亀岡市(同 1 回、参加者延べ 12 人)、鳥取県八頭町(同 4 回、参加者延べ 42 人)、公立鳥取環境大学(同 3 回、参加者延べ 57 人)で出張実験室を設置し、非都市部の高齢者を含む社会人・学生が都市部と異なるかを検討した。

また、奈良県生駒市ではメタボリック症候群の高齢者を含む社会人の健康指導を促す施策として効果的な介入を探るために、フィールド実験を実施した。

これらの実績は研究目的(3)に該当する。学外での実験実施・データ収集に関するノウハウを構築することができただけでなく、フィールド実験を実施し、政策提言に直結する研究を開始できた。

## [4 年目(平成 29 年度)]

研究目的(1)に関しては、1 年の間に 154 回の実験実施という高い稼働率を達成した。

研究目的(2)に該当する成果を述べる。昨年度から継続してデータを収集している研究者に加え、本年度は広島大学、大阪大学、京都大学の研究者(いずれもプロジェクトメンバー外)、立命館大学(学外プロジェクトメンバー)による実験が実施された。

研究目的(3)に該当する成果を述べる。社会人の協力傾向に関する経済実験(新規)、社会人の公平性、利他性に関する実験、調査を実施(32 回)した(関西大学経済実験センター、関西大学梅田キャンパス、山形県西川町)。

3 年目より実施中の奈良県生駒市での特定保健指導に関するフィールド実験では、新たに特定保健指導の対象になった者を対象に追加実験を実施した。また、兵庫県猪名川町からの依頼により、健康増進企画に関するフィールド実験を新たに立案した。具体的には、同町において実施されている、健康増進のためのウォーキング企画への参加者を増やす方策の提言を求められたため、ランダム化比較試験を実施し、どのような方法が最も効果的かを調査する準備をしてきた。

また、通常開催しているセミナーに加え、平成 29 年 10 月には実験社会科学カンファレンスを開催し、国内の実験経済学者、行動経済学者、社会心理学者が集う機会を提供した。また、これまでの調査の成果を市民に還元すべく、市民講座を山形県西川町(平成 29 年 3 月)、本学梅田キャンパス(平成 29 年 7 月)にて開催した。(別紙資料 4)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

### [5 年目(平成 30 年度)]

研究目的(1)および(2)についてはこれまで同様順調に進んだ。

研究目的(3)に該当する成果を述べる。4 年目に開始した、兵庫県猪名川町と共同研究を一層推進し、上述のフィールド実験をスタートさせた。実験は平成 30 年 7 月より実施された。また、奈良県生駒市で実施した、特定保健指導に関するフィールド実験の成果を環境省主催「ベストナッジ賞」コンテストに応募した。本研究は書類選考を通過し、最終選考の行動経済学会(平成 30 年 12 月)でのポスターセッションで成果を公開した。最終選考に残った研究成果のうち、大学発の研究成果が本プロジェクトのみであったことは本プロジェクトの研究推進力の高さを示していると考えられる。

加えて、昨年度までの研究を学術誌に随時投稿している。コメントに従って追加でデータを収集することも進めている。

シミュレーション分析については、社会シミュレーションを行う前段階の人間行動の分類について着手できた。具体的には次項の(f)で実施された実験において参加者が囚人のジレンマ状況において選択した戦略の推定を進め、平成 30 年 12 月に名古屋市立大学で開催された実験社会科学カンファレンス、平成 31 年 3 月に名古屋工業大学で開催された進化経済学会、同 3 月に慶應義塾大学で開催された WEAI で成果を発表した。この結果は個人の協力行動に関する社会シミュレーションを構築するにあたっての重要な資料になる。このような社会シミュレーションは社会心理学や計算機経済学、数理生物学においても研究が進んでおり、これらの分野への研究上の貢献も高いと考えられる。

また、平成 30 年 7 月に関西大学で開催された「法と経済学会」において行動経済学に関する特別セッションが設置され、その準備および特別セッションの設置にもプロジェクトメンバーが関わった。CEE and RISS seminar series on experimental economics も 15 回開催し、プロジェクトメンバー以外の学外研究者も参加している。

以下、それぞれの研究目的に関する進捗状況をまとめる。政策提言については、5 年目に地方自治体向けという形で実現した(後述、(i)生駒市での特定保健指導)。この政策提言はフィールド実験に基づいた結果であるが、フィールド実験を設計する際に実験室で見られる人間行動が参考となっている。

	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目
研究目的(1)	実験室設置	実験室の運営	実験室の運営	実験室の運営	実験室の運営
研究目的(2)		学外への開放	学外への開放	学外への開放	学外への開放
研究目的(3)	社会人プールの構築	社会人プールの構築と実験実施	関西に加え遠隔地でも実験を実施	遠隔地でも実験を実施・成果の公表と還元	追加的な実験の実施・成果の公表と還元

### <優れた成果が上がった点>

最初に研究目的(1)および(2)に関して、研究環境を整備する観点から優れた成果が上がった点を説明する。本学経済実験室の稼働率は日本でも有数の規模を誇る。ほとんどの大学の経済実験室が所属大学の研究者およびその関係者にのみ開放している中で、本学経済実験室は研究倫理委員会の審査を通過すれば(本学研究者との共同研究でなくとも)経済実験ができる。ただし、謝金などの経費は当該研究者の負担である。金銭的な負担はあるものの、参加者募集や参加者情報管理といった業務負担を軽減している点が本プロジェクトの強みである。その結果、実験実施のハードルを下げ、経済学の実証科学化に大きく寄与していると考えられる。

実験室の稼働状況について述べる。平成 26 年 12 月の稼働開始以来、実験室利用は年々増加している。平成 27 年度、年間 110 回、28 年度 264 回の経済実験が行われた。この内、社会人向け実験は 110 回、社会人と比較するための学生向け実験は 32 回実施された(いずれも平成 27 年度、平成 28 年度の合計)。それ以外はオープンラボラトリ化に伴う実験である(計 232 回)。平成 29 年度は 154 回の実験が実施された。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

社会人・高齢者の実験参加者プールが豊富であることも、プロジェクトが築き上げた研究上の資産であり、他大学の実験室と差別化できる特色である。平成 31 年 2 月現在では計 1,544 人の社会人・高齢者が登録している(46%が男性、平均年齢は 54.6 歳)。

さらに、本事業の成果として、大阪産業大学、明治学院大学の経済実験室立ち上げに本センターのノウハウを提供した。その他、龍谷大学からの経済実験室立ち上げの相談を受けたことが挙げられる。また、研究代表者は経済実験の解説論文を学術誌に掲載した(小川, 平成 27 年)\*A-5。

このように、他大学の実験室運営支援を行うのは、大学横断型実験参加者プールを構築する必要があるためだ。この取り組みはヨーロッパで大きく先行しており、経済学の実証科学化の点で日本も早晚取り組まなければならない課題である。

そこで、プロジェクトメンバーを中心に、平成 29 年度に科研費(挑戦研究(萌芽)、代表・小川)を獲得し、広島市立大学、大阪産業大学、同志社大学、本学で共通のプロトコルを採用し、同じようにコントロールされた実験を行う体制を構築した。平成 30 年度からは上記の大学で実験を随時実施している。このように、本プロジェクトの一部を発展させる形で採択された科研費プロジェクトとも相乗効果(学生参加者プールの拡充、認知能力スコアの収集など)を生み、実験室の利用を促すように研究を進めた。

さらには、平成 30 年 12 月には経済実験で頻出する統計手法をまとめた書籍『経済学のための実験統計学(Experimetrics の翻訳)』の刊行に寄与した(モファット著・川越監訳他, 平成 30 年)\*B-1。こういった書籍は研究業績としては些細なものであるが、社会科学分野の実験研究者コミュニティに一定の影響を与えると考えられる。

次いで、研究目的(3)に該当する成果について、最初に公刊済みのものを説明する。次いで、未公刊であるが重要な成果が得られている研究について説明する。

#### (1) 公刊済みの研究で得られた成果

以下の4編の論文から、寄付行動などの利他的行動に関して重要な知見が得られた。アメリカなどの諸外国と比べて、日本は寄付が少ないことが知られている。そのため、寄付を増加させるために有効な方策を以下で述べる。また、主体間の協力は社会を維持する上で重要な要因である。協力を実現しやすくするための方策についても以下で言及する。

(a)寄付が届けられるのに時間がかかると寄付額が減少する(Ogawa and Ida., 平成 27 年)\*A-7。この結果から、必要な主体に寄付を迅速に届けるための環境整備が提案できる。

(b)寄付するかどうか、いくらするかを集団で意思決定すると個人で行うよりも少なくなり、遠くにいる人に寄付する方が少なくなる(Ito et. al., 平成 28 年)\*A-3。この結果から、寄付は会社で募るよりも、個人毎に募ったほうがよく、また遠方に住んでいる人よりも近くに住んでいる人に募ったほうが良い。

(c)複数の活動で協力するよりも、個々の活動で協力する方が容易である(Yang et. al., 平成 28 年)\*A-4。協力が容易な活動から進めれば、例えば街作りなどの運営の一助になるだろう。また、問題を国際関係に敷衍すれば、政治的な問題解決にも示唆が得られる。

(d)最後通牒ゲーム実験で、認知能力の高い提案者は相手に多く分配する。熟考を促す状況では、認知能力の高い応答者は低い提案額でもそれを受け入れた(Kawamura and Ogawa., 平成 28 年~30 年)\*D-4,D-22, 掲載受理平成 31 年\*A-102)。認知能力が高い人は経済学的な合理性に従って行動すると言われているが、本研究では、そういった人々は付された役割によって行動を変更することが明らかになった。

以上の結果から、時間・地理的距離が寄付行動に影響することがわかった(a, b)。また、複数の活動

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

に協力するよりも、心理的・金銭的にもコストが小さい活動の一つずつ行うほうが、協力しやすいことが確認できた(c)。認知能力の水準によって人間の経済的意思決定のあり方が異なることが明らかになった(d)。

(2) 未公開であるが重要な成果が得られている研究

年齢を重ねるにつれて、人の認知能力は低下していく傾向にある。日本でも、生涯学習などを通じて、こうした認知能力の低下に歯止めをかける方策を考えている。以下の2編(e, f)からは、認知能力を高めることは、寄付行動や合理的な行動をしやすくなることが示された。このことから、学習者自身だけでなく、社会にもより良い影響を及ぼすことが示唆される。

また、高齢者に関する知見として、女性の高齢者は他人への信頼度が低いことがわかった。特殊詐欺などの被害者が高齢の女性に偏っている傾向にあることを踏まえると、他人への信頼以外の要因があることがわかった(g)。

さらに、上記(c)とも関連するが、集団の構成員数が大きい場合に全体で協力することが難しい場合がある。その場合、何らかの制度を導入することで協力を促進することがある。(h)では集団の一部がサブグループを構成し、そのグループの構成員が協力することで合意するという制度を導入し、協力が促されるかどうかを検討した。

(e)認知能力が高いと寄付が少なくなり、年齢が高くなると寄付が増加する(Ogawa, et al., 平成 30 年)\* D-6。この結果は人間の利他性が認知能力と年齢にも影響を受けることを示している。新たな発見であると共に、年齢別や認知能力別に寄付政策を構築する必要性を示唆している。ただし、この結果を現実に適応する際には注意が必要である。それは認知能力の収集にはコストがかかるためである。そのため、認知能力の代替変数を用意する必要がある。現在、国際学術誌に投稿し、major revision となっている。

(f)高齢者、社会人の協力行動に関する分析(小川・川村・稲葉・三浦, 平成 31 年,平成 30 年,平成 29 年)\* C-1~C-3, C-10。「無限回」版(I)と「有限回」版(F)の繰り返し囚人のジレンマ実験(RPD)で検討し、ゲーム理論の予想通り、条件 I では平均継続回数が増加するにつれて協力が増加する一方、条件 F では協力率は増加しないことが分かった。特に、条件 I で平均終了回数が増えたと認知能力の高い社会人が協力しやすい戦略を採用していたことが解析で明らかになった。以上から協力を促進する際の重要人物が認知能力の高い人であることが示唆された。

(g)社会人の高齢女性は他人をあまり信用しない(森・小川, 平成 27 年)\* C-15~C-18。この結果から、特殊詐欺の高齢女性の被害件数の多さは、他人への信頼以外の要因に左右されていることが示唆される。

(h)集団内の協力を促す制度設計に関する研究(稲葉・川村・小川, 平成 30 年)\* C-81。チーム内の協力を促すには、チームの中の有志のみが全会一致で協力する取り決めを行うのが良いか、有志のみが多数決で協力する取り決めを行うのが良いかを検討した。社会人と学生の間での行動の違い、特に学生参加者とは異なり、社会人参加者にはそういった取り決めが影響を与えないことが明らかになった。そのため、社会人参加者の心理学的特性を変数に入れた分析を行い、行動原理の解明を進めた。

以下、自治体と共同で行われた実験の実施状況を述べる。自治体との共同研究は上述の通り兵庫県猪名川町でも実施されているが、平成 31 年 3 月現在では結果が得られていないため割愛する。

(i)生駒市での特定保健指導(本西・川村・森・小川, 平成 30 年)\* C-22。生駒市の特定保健指導対象者の受診率は県内他市町村と比べて低い。そこで、指導を促す資料を同市から発送する際に、対象者をランダムに 3 群に分け、異なる刺激を与えた。A 群は何も刺激を与えない。B 群には放置の結果かかりやすい疾患を示したチラシ B(左下図)を追加、C 群には B 群と文言が同内容だが、見た目に

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

恐怖心を与えるチラシ C(右下図)を追加した。



チラシ B



チラシ C



平成 28 年度の結果は、C 群の受診率が他群よりもやや高いというものだった。平成 29 年度も同様の介入を継続し、平成 28 年度にコントロールグループだった人と平成 29 年度に新たに特定保健指導の対象になった人に対して平成 28 年度同様の処置を施した。なお、平成 28 年度にトリートメントグループに割り当てられた人には、平成 28 年度と同じ種類のチラシを配布した。平成 29 年度については顕著な結果が得られなかったが、実験についてはこの 2 カ年で終了し、生駒市の担当部局からのデータ提供を得て、学会発表を実施した。

#### <研究成果のまとめ>

研究成果のまとめは大きく三つある。一つは実験室実験で得られた、社会人・高齢者の行動分析の成果である。本プロジェクトでは人間の認知能力と経済的意思決定に焦点を当てたものが結果的に多くなった。これは、年齢とともに認知能力が衰えていくなかで、経済的な意思決定がどのように変容するかに関心を当てることの重要性に鑑みた結果である。

具体的には、互惠性に関する研究(最後通牒ゲーム実験)、利他性に関する研究(独裁者ゲーム実験)、協力に関する実験(繰り返し囚人のジレンマゲーム実験)を実施し、認知能力と意思決定について検討した。その結果、認知能力は社会人・高齢者の経済的意思決定に有意な影響を与えていることが分かった。具体的には、認知能力の高い人々は、状況判断に優れ、自らの置かれた状況に応じて行動を変更することが明らかになった。このような指摘は、故・山岸俊男教授を代表とする研究グループも示唆しているが、本プロジェクトではその指摘が一般的であることを示している。

二つ目は旺盛な実験室利用である。プロジェクトを推進した 5 年間で、学内外の研究者によって 689 回の実験が実施された。年平均では 140 回ほどの稼働である。このように高い稼働率を誇る実験室は世界的に見ても珍しいだろう。このような実績の背景には、2,000 人規模の学生参加者プールと 1500 人規模の社会人・高齢者参加者プールの存在がある。

三つ目は地方自治体などとの連携による社会実験の実施である。多くの地方自治体は少子高齢社会の到来に伴う人口減少問題とそれに起因する財政問題に直面しており、限られた財源の中で効果的な政策を実施する必要性がこれまでに高まっている。このような状況の中で、科学的評価を導入した社会実験を実施できる基盤が整い、実際に実施し、結果を分析できるまで到達したことは価値が高いと考えられる。

#### <課題となった点>

課題となった点は(1)遠隔地での参加者募集、(2)社会シミュレーションに資するデータの収集、(3)収集済みデータの整理である。

(1)については鳥取県八頭町や山形県西川町で実験を実施したが、いずれも人口が少ない地域で

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

あるため、自治体の協力が不可欠である。前者との協力は残念ながら上手くいかなかったが、後者との協力は大変順調であり、本プロジェクトの上部組織である RISS と西川町が連携協定を締結するに至った。

なお、自治体の協力を得られたとしても、なかなか参加者を集めることは難しい。研究ではランダムに参加者を募る必要があるがこの点が満たされないことが多い。そのため、西川町と新たな参加者募集方法を考案しているところである。

(2)については、参加者の利他性や互惠性、協力傾向に関する行動データや認知能力、性格特性をこれまで収集した。しかし、参加者の行動を規定する属性としてリスク態度や時間選好などの収集が残っている。プロジェクト終了後も、参加者プールは研究上の重要な資産として利用できるため、今後でもできる限り多くのデータを収集したい。

(3)については、実験参加者の特性データや意思決定に関するデータがクラウド上の参加者登録システムや実験実施時に作成する参加者名簿、個別の実験結果を格納したデータファイルに分散して存在するため、分析のためのデータセット作成に時間がかかるといった問題がある。そのため、特性データに関してはクラウド上に必要なものを格納するためにデータ整理を行っている。

#### <自己評価の実施結果と対応状況>

プロジェクトメンバーが本学のみならず他大学にも多く所属しているため、全体で会合を持つことは難しかったが、平成 29 年 10 月に本学で開催した実験社会科学カンファレンスなどの場において、プロジェクトメンバーと、本プロジェクトおよび経済実験室の今後に関する議論を交わすことができた。

平成 27 年 12 月に大学の「外部資金審査・評価部会」の研究進捗状況チェックにおいて、研究活動が順調に進捗しているとの評価を得たが、社会人・高齢者の経済実験データ収集の遅れについてコメントがあったので、より広域の居住者、より幅の広い年齢層の参加者を得るため、チラシ配布方法の工夫、インターネットでの募集、学生父母会、校友会へ周知を図った。また、平成 30 年 10 月には同部会の最終評価において、最高点の 4 点という評価を得た。外部の研究者が比較的容易に経済実験を実施できる環境を構築し、さらに高い稼働率を誇る点、社会人・高齢者の参加者プールを設置、維持している点が評価を受けた。【別紙資料 資料 1】

#### <外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

秋山英三教授(筑波大学)、依田高典教授(京都大学)、竹内幹准教授(一橋大学)に外部審査委員を委嘱し、これまで 2 度の評価を得ている。1 度目は平成 28 年、2 度目は平成 30 年である。1 度目の評価は「概ね順調に推移している」、2 度目の評価は「短時間で実験経済学の研究拠点に育て上げた」というものである。いずれも高い評価であり、卓越した研究施設として支援を継続する必要があるという提言を得た。詳細は別紙資料 2 を参照。

#### <研究期間終了後の展望>

研究成果の継続的公開・学術誌採択を目指すことはもちろん、大型外部資金に応募し、採択を目指す。平成 30 年度にはプロジェクトメンバーを中心に課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業に応募するなど、研究期間終了後を見据えた活動を行っている。

科研費の獲得についてもプロジェクトメンバーは熱心であり、採択実績も十分な水準である。平成 29 年度のプロジェクトメンバーの新規採択実績は 3 件(総配分額合計 14,950 千円)であり、平成 30 年度の新規採択実績は 4 件(総配分額合計 20,540 千円)である。

こういった研究費獲得への努力と同時に、本プロジェクトで運営している経済実験室は今や世界的な研究拠点となっており、様々な形で維持・発展を行いたい。上記の研究資金獲得はその一つだが、それ以外にも学外の実験実施者から実験室を維持するための使用料を徴収し、それを運営費に充当する可能性も探っている。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

さらに、以下でも述べるが、本プロジェクト遂行中に、政策評価に効果を発揮するランダム化比較試験を用いたフィールド実験を実施するためのノウハウを蓄えられた。研究期間終了後は経済実験室での実験だけではなく、フィールド実験の拠点として活動することを視野に入れている。

平成31年度以降の本プロジェクトの推進について述べる。大学からの支援を得て、本プロジェクトは本学 RISS 内の研究プロジェクトの一つとして継続することが決まった。実験施設および社会人・高齢者の参加者プール、本学学生の参加者プールがそのまま維持されることで、研究を継続することが可能である。外部への開放についても継続するが、これまでのような無償開放からの転換が必要かもしれない。その場合にも必要最低限の利用料を課すだけで、学外の研究者が実験を実施できるようにしたい。

#### <研究成果の副次的効果>

研究成果の副次的効果は以下の3点である。(1)遠隔地での経済実験を行うノウハウを獲得したこと、(2)複数の経済実験拠点の緊密な連携、(3)地方自治体との連携の中からフィールド実験を実施できる体制ができたこと。

まず(1)について、プロジェクトで保有しているタブレットPCと無線LAN、パーティションを現地に託送し、現地にてプロジェクトメンバーが実験準備を行うことで上述の通り鳥取や山形で実験を行った。謝金支払いの制約はあるものの、実験参加者さえ集まればどこでも実験ができる点は大きなメリットであり、現時点では、本プロジェクトでしか行えないことである。なお、大阪市内の参加者を多く募る場合には、梅田キャンパスにこれらの機材を託送し、鳥取や山形と同様のことを行えばよく、すでに実施済みでもある。

次に(2)については、上述したとおり、科研費の獲得に繋がっただけでなく、本分野で世界トップの水準にあるヨーロッパの経済実験グループにもキャッチアップできる体制を整えつつある。

最後に(3)については、奈良県生駒市や兵庫県猪名川町のように、いくつかの地方自治体をフィールドにランダム化比較試験を用いた社会実験が行えるようになった。フィールド実験は地方自治体や企業の協力が不可欠であり、国内でも実施できる研究機関は大変少ない。また、奈良県生駒市のように一定の成果が得られ、公表されたものもある(行動経済学会・環境省共催のナッジ・コンテスト)。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 実験経済学 (2) 社会人の意思決定 (3) 開放型実験拠点(オープンラボラトリ)  
 (4) フィールド実験 (5) 学外での経済実験 (6) 利他性  
 (7) 協力 (8) \_\_\_\_\_

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

<雑誌論文>

小川一仁

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-1	<u>小川一仁</u>	「実験」を通じた複眼的思考の育て方	経済教育	-	36	10-13	平成 29 年
A-2	<u>小川一仁</u>	高齢者、流動的知性、経済的意思決定	ひと・健康・未来 (公益財団法人 ひと・健康・未来 研究財団)	-	15	10-13	平成 29 年
* A-3	Takehiro Ito, <u>Kazuhito Ogawa,</u> Akihiro Suzuki, <u>Hiromasa Takahashi,</u> and Toru Takemoto	<u>Contagion of Self-Interested Behavior: Evidence from Group Dictator Game Experiments</u>	German Economic Review	17	4	425-437	平成 28 年
* A-4	Junho Yang, Tetsuya Kawamura and <u>Kazuhito Ogawa</u>	<u>Experimental multimarket contact inhibits cooperation</u>	Metroeconomica	67	1	21-43	平成 28 年
* A-5	<u>小川一仁</u>	<u>数理社会学ワンステップア ップ講座(9) 実験経済学入 門-セミナー+α</u>	理論と方法	30	2	331-344	平成 27 年
A-6	<u>小川一仁</u>	「社会学におけるゲーム理論の応用可能性」へのコメント	経済社会学会 年報	37	-	34-37	平成 27 年
* A-7	<u>Kazuhito Ogawa,</u> Takanori Ida	<u>Investigating Donating Behavior using Hypothetical Dictator Game Experiments</u>	Review of Social Economy	73	2	176-195	平成 27 年
A-8	藤倉崇晃、 <u>小川一仁</u> 、	仲介者と取引するトレーダーの曖昧性忌避とリスク回	応用経済学研究	8	-	69-94	平成 27 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

秋山英三	避 —経済実験による検証—					
------	---------------	--	--	--	--	--

本西泰三

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-9	<u>Taizo Motonishi</u>	The Effects of the Great East Japan Earthquake on Investors' Risk and Time Preferences	Economics Bulletin	37	3	1830-1843	平成 29 年

小林創

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-10	<u>小林創</u> 、 <u>稲葉大</u> 、 <u>七條達弘</u>	最適失業保険の導入効果についての経済実験: CrowdFlower を用いた実作業オンライン予備実験	関西大学経済論集	67	4	343-357	平成 30 年
A-11	<u>Hajime Kobayashi</u> , <u>Katsunori Ohta</u> and <u>Tadashi Sekiguchi</u>	Optimal Sharing Rules in Repeated Partnerships	Journal of Economic Theory	166	-	311-323	平成 28 年

長久領吉

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-12	<u>Tomoyuki Kamo</u> , <u>Ryo-Ichi Nagahisa</u>	Arrovian social choice with psychological thresholds	Journal of Mathematical Economics	63	C	93-99	平成 28 年

座主祥伸

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-13	<u>Atsushi Tsuneki</u> , <u>Yoshinobu Zasu</u>	On the Complementarity between Law and Social Norms	Review of Law & Economics	11	3	503-512	平成 27 年

村田忠彦

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-14	<u>杉浦翔</u> 、 <u>村田忠彦</u> 、 <u>原田拓弥</u>	賃金構造基本統計調査に基づく合成世帯集団の労働者への所得の割当て	システム制御情報学会論文誌	32	2	70-79	平成 31 年
A-15	<u>原田拓弥</u> 、 <u>村田忠彦</u> 、 <u>柘井大貴</u>	家族類型と世帯内の役割を考慮した SA 法による大規模世帯の復元	計測自動制御学会論文誌	54	9	705-717	平成 30 年
A-16	<u>原田拓弥</u> 、 <u>村田忠彦</u>	並列計算を用いた SA 法による都道府県レベルの大規模世帯の復元	計測自動制御学会論文誌	54	4	421-429	平成 30 年
A-17	<u>桧山貴憲</u> 、	デジタルサイネージを活用	計測自動制御	-	-	246	平成 30 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	高本那由多、 <u>村田忠彦</u> 、佐々木美絵	した AED の搬送要請システム	学会第 15 回社会システム部会研究会資料(沖縄, 3 月 14-16 日)				
A-18	原田拓弥、杉浦翔、 <u>村田忠彦</u>	リアルスケール社会シミュレーションのための日本全国・複数年度の仮想個票の合成	計測自動制御学会第 15 回社会システム部会研究会資料(沖縄, 3 月 14-16 日)	-	-	252	平成 30 年
A-19	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	市区町村の統計表を考慮した都道府県単位の仮想個票の合成	計測自動制御学会第 15 回社会システム部会研究会資料(沖縄, 3 月 14-16 日)	-	-	30-35	平成 30 年
A-20	杉浦翔、 <u>村田忠彦</u> 、原田拓弥	就業形態を考慮した合成人口の労働者への所得の割り当て	計測自動制御学会第 15 回社会システム部会研究会資料(沖縄, 3 月 14-16 日)	-	-	179-186	平成 30 年
A-21	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	社会シミュレーションのための異種並列計算環境における再現性の確保	システム制御情報学会論文誌	31	2	37-48	平成 30 年
A-22	<u>Tadahiko Murata</u> , Takuya Harada	Nation-Wide Synthetic Reconstruction Method	Proc. of 2017 IEEE Symposium Series on Computational Intelligence (Hawaii, USA, Nov.27-Dec. 1)	-	-	596-601	平成 29 年
A-23	杉浦翔、 <u>村田忠彦</u>	産業分類ごとに就業状態を考慮した個々の世帯への所得の割当	計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会資料(静岡大学浜松キャンパス, 11 月 25-27 日)	-	-	6	平成 29 年
A-24	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	SA 法による仮想個票の住居への建築の時期属性の付加手法の検討	計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会資料(静岡大学浜松キャンパス, 11 月 25-27 日)	-	-	6	平成 29 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

A-25	<u>Tadahiko Murata,</u> Takuya Harada and Daiki Masui	Projecting Households of Synthetic Population on Buildings Using Fundamental Geospatial Data	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration	10	6	505-512	平成 29 年
A-26	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Comparing Transition Procedures in Modified Simulated-Annealing-Based Synthetic Reconstruction Method Without Samples	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration	10	6	513-519	平成 29 年
A-27	柘井大貴、 村田忠彦	統計データからの市民属性復元のための進化計算と SA による2段階最適化	システム制御情報学会論文誌	30	6	216-227	平成 29 年
A-28	<u>Tadahiko Murata,</u> Sho Sugiura and Takuya Harada	Income Allocation to Each Worker in Synthetic Populations Using Basic Survey on Wage Structure	Proc. of 2017 IEEE Symposium Series on Computational Intelligence (Hawaii, USA, Nov.27-Dec. 1)	-	-	471-476	平成 29 年
A-29	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Projecting Synthetic Households on Buildings Using Fundamental Geospatial Data	Proc. of Social Simulation Conference 2017 (Dublin, Ireland, Sep. 25-29)	-	-	-	平成 29 年
A-30	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Parallel Computing for Reconstructing Large-Scale Household Composition from Statistics for Agent-Based Social Simulations	Proc. of the 17th World Congress of International Fuzzy Systems Association and the 9th International conference on Soft Computing and Intelligent Systems (Otsu, Shiga, Japan, June 27-30), Paper ID 210.	-	-	1-4	平成 29 年
A-31	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Reproducible Large-Scale Social Simulations on Various Computing Environment	Proc. of the 17th World Congress of International Fuzzy Systems Association and	-	-	1-5	平成 29 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

		the 9th International conference on Soft Computing and Intelligent Systems (Otsu, Shiga, Japan, June 27-30), Paper ID 220.				
A-32	<u>村田忠彦</u> 、 <u>濱口祐実</u>	投票参加モデルを用いた共通投票所の有効性の検証 - 函館市における平成 28 年参議院議員通常選挙の事例 -	2017 年度日本選挙学会研究会方法論部会：シミュレーションモデリングと選挙研究(香川, 5 月 20-21 日)	-	-	6 平成 29 年
A-33	<u>原田拓弥</u> 、 <u>村田忠彦</u>	建築面積と建て方を考慮した位置情報付き世帯構成合成法の改良	計測自動制御学会第 12 回社会システム部会研究会資料(グアム, 3 月 3 - 5 日)	-	-	242 平成 29 年
A-34	<u>原田拓弥</u> 、 <u>村田忠彦</u>	家族類型と世帯内の役割を考慮した SA 法による日本全体の世帯の合成	計測自動制御学会第 12 回社会システム部会研究会資料(グアム, 3 月 3 - 5 日)	-	-	113-118 平成 29 年
A-35	<u>柘井大貴</u> 、 <u>村田忠彦</u> 、 <u>原田拓弥</u>	市民属性の合成手法における年齢交換による誤差最小化	計測自動制御学会第 12 回社会システム部会研究会資料(グアム, 3 月 3 - 5 日)	-	-	31-39 平成 29 年
A-36	<u>原田拓弥</u> 、 <u>村田忠彦</u>	基盤地図情報による合成した世帯構成への位置情報の付加	計測自動制御学会第 12 回社会システム部会研究会資料(グアム, 3 月 3 - 5 日), 最優秀論文賞	-	-	1-6 平成 29 年
A-37	<u>Tadahiko Murata</u> , <u>Takuya Harada</u> and <u>Daiki Masui</u>	Modified SA-based Household Reconstruction from Statistics for Agent-Based Social Simulations	Proc. of IEEE International Conference on System, Man & Cybernetics: SMC 2016 (Budapest,	-	-	3600-3605 平成 28 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

		Hungary, Oct. 9-12)				
A-38	杜逆索、 <u>村田忠彦</u>	公的年金制度における 47 都道府県の所得代替率に関する考察	システム制御情報学会論文誌	29	9	422-431 平成 28 年
A-39	Nisuo Du, <u>Tadahiko Murata</u>	Income Replacement Rate by Region and Household Type in Japanese Pension System Using Microsimulation	Proc. of 11th Conference of the European social simulation association (Rome, Italy, Sep. 19-23), Paper ID: 76	-	-	12 平成 28 年
A-40	濱口祐実、 <u>村田忠彦</u>	大学入学希望者学力評価テストの複数回実施による合格者決定方法	計測自動制御学会第 10 回社会システム部会研究会資料(石垣島, 3 月 16-18 日)	-	-	99-102 平成 28 年
A-41	杜逆索、 <u>村田忠彦</u>	公的年金制度における都道府県別の所得代替率と世帯タイプの関係に関する研究	計測自動制御学会第 10 回社会システム部会研究会資料(石垣島, 3 月 16-18 日)	-	-	65-72 平成 28 年
A-42	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u> 、 <u>枘井大貴</u>	並列計算を用いた SA 法による大規模世帯の復元	計測自動制御学会第 10 回社会システム部会研究会資料(石垣島, 3 月 16-18 日)	-	-	49-54 平成 28 年
A-43	杉浦翔、 <u>村田忠彦</u>	Agent-Based Simulation を用いた消費税増税の所得階層への影響についての分析	計測自動制御学会第 10 回社会システム部会研究会資料(石垣島, 3 月 16-18 日)	-	-	21-28 平成 28 年
A-44	Daiki Masui, <u>Tadahiko Murata</u>	A two-fold simulated annealing to reconstruct household composition from statistics	Proc. of IEEE International Conference on System, Man & Cybernetics: SMC 2015 (Hong Kong, China, Oct. 9-12)	-	-	1133-1138 平成 27 年
A-45	Nisuo Du,	Comparing income	Proc. of 11th	-	-	13 平成 27 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	<u>Tadahiko Murata</u>	replacement rate by prefecture in Japanese pension system	Conference of the European social simulation association (Groningen, The Netherlands, Sep. 14-18), Paper ID: 113				
A-46	栴井大貴、 <u>村田忠彦</u>	統計データからの人口データ復元における世帯の比較手法の提案と復元精度の検証	計測自動制御学会第9回社会システム部会研究資料(神奈川県、8月27-28日)	-	-	-	平成27年
A-47	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	異種計算機環境における再現性のあるシミュレーションモデルの提案	計測自動制御学会第9回社会システム部会研究資料(神奈川県、8月27-28日)	-	-	-	平成27年
A-48	濱口祐実、 <u>村田忠彦</u>	Agent-Based Simulationを用いた入試制度改革による合格者の変化	計測自動制御学会第9回社会システム部会研究資料(神奈川県、8月27-28日)	-	-	-	平成27年
A-49	杉浦翔、 <u>村田忠彦</u>	消費税増税による経済成長及び所得分布への影響のABMを用いた分析	計測自動制御学会第9回社会システム部会研究資料(神奈川県、8月27-28日)	-	-	-	平成27年
A-50	Taiyo Maeda, Shigeru Matsumoto and <u>Tadahiko Murata</u>	Agent Heterogeneity and Facility Congestion	Computational Economics	46	2	189-203	平成27年
A-51	Goutam Chakraborty, Robert Reynolds, <u>Tadahiko Murata</u> and Qiangfu Zhao	Awareness in Brain, Society and Beyond	IEEE Systems, Man, and Cybernetics Magazine	3	-	10	平成27年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

A-52	<u>Tadahiko Murata, Daiki Masui</u>	Designing simulated annealing and evolutionary algorithms for estimating attributes of residents from statistics	Proc. of IEEE International Conference on Evolutionary Computation (Sendai, Japan, May 25-28, 2015)	-	-	2476-2481	平成 27 年
A-53	<u>Ricardo Navarro, Tadahiko Murata, Rafael Facon and Kim Chyon Hae</u>	A generic niching framework for variable mesh optimization	Proc. of IEEE International Conference on Evolutionary Computation (Sendai, Japan, May 25-28, 2015)	-	-	1994-2001	平成 27 年
A-54	<u>栴井大貴、村田忠彦</u>	エージェント属性復元における Simulated Annealing を用いた世帯構成の最適化	計測自動制御学会第8回社会システム部会研究会資料(宮古島, 3月13-15日, 2015)	-	-	-	平成 27 年
A-55	<u>杜逆索、村田忠彦</u>	公的年金制度における都道府県別の所得代替率に関する研究	計測自動制御学会第8回社会システム部会研究会資料(宮古島, 3月13-15日, 2015)	-	-	-	平成 27 年
A-56	<u>杉浦翔、村田忠彦</u>	エージェントシミュレーションを用いた 消費税増税による経済成長への影響の分析	計測自動制御学会第8回社会システム部会研究会資料(宮古島, 3月13-15日, 2015)	-	-	-	平成 27 年
A-57	<u>原田拓弥、村田忠彦</u>	General-Purpose Computation on GPUs を用いた 再現性のある Agent-Based Simulation の高速化	計測自動制御学会第8回社会システム部会研究会資料(宮古島, 3月13-15日, 2015)	-	-	-	平成 27 年
A-58	<u>栴井大貴、村田忠彦</u>	統計データを用いたエージェント属性生成における誤差最小化のための進化計算手法	進化計算学会 進化計算シンポジウム 2014 講演論文集(広島, 12月20-21日, 2014)	-	-	-	平成 26 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

A-59	<u>Tadahiko Murata,</u> Naoki Kasatani	A Microsimulation Tool for Airport Selection using Public Data on the Web	The Review of Socionetwork Strategies	8	2	85-99	平成 26 年
A-60	<u>Tadahiko Murata,</u> Naoki Kasatani	Airport Selection from Multiple Airports Using Social Awareness Approach	Proc. of IEEE International Conference on Awareness Science and Technology (Paris, France, Oct. 29-30, 2014)	-	-	6	平成 26 年
A-61	<u>Tadahiko Murata,</u> Daiki Masui	Estimating Agent' Attributes Using Simulated Annealing from Statistics to Realize Social Awareness	Proc. of IEEE International Conference on System, Man & Cybernetics: SMC 2014 (San Diego, USA, Oct. 5-8, 2014)	-	-	717-722	平成 26 年
A-62	栴井大貴、 <u>村田忠彦</u>	統計データとの誤差最小化のための SA によるエージェント属性復元	計測自動制御学会第7回社会システム部会研究会資料(小樽、9月8-9日、2014)奨励賞	-	-	47-52	平成 26 年
A-63	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	エージェントシミュレーションによる公的年金制度における所得代替率に関する研究	計測自動制御学会第7回社会システム部会研究会資料(小樽、9月8-9日、2014)	-	-	21-26	平成 26 年
A-64	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	マイノリティゲームにおける効率性の周期の分析	計測自動制御学会第7回社会システム部会研究会資料(小樽、9月8-9日、2014)	-	-	15-20	平成 26 年
A-65	杜逆索、 <u>村田忠彦</u>	非対称情報化の市場におけるシグナルに関するエージェントベースシミュレーションによる研究	システム制御情報学会論文誌	27	7	309-318	平成 26 年

稲葉美里

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-66	<u>Misato Inaba,</u> Nobuyuki	Linkage based on the kandori norm successfully	Games	-	-	-	forthcoming

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

Takahashi	sustains cooperation in social dilemmas					
-----------	---	--	--	--	--	--

小田秀典(宗兵衛)

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-67	Yu Izumi, Masashi Kasaki, Yan Zhou and Sobei H. Oda	Definite descriptions and the alleged east-west variation in judgments about reference	Philosophical Studies	175	5	1183-1205	平成 30 年
A-68	Nick Feltovich, Sobei H. Oda	Effect of Matching Mechanism on Learning in Games Played Under Limited Information	Pacific Economic Review	19	3	260-277	平成 26 年

尾崎祐介

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-69	Yoichiro Fujii, Yusuke Osaki	Regret-sensitive treatment decisions	Health Economics Review	8	1	14	平成 30 年
A-70	Hideki Iwaki, Yusuke Osaki	Comparative statics and portfolio choices under the phantom decision model	Journal of Banking and Finance	84	C	1-8	平成 29 年
A-71	Yusuke Osaki, Kit Pong Wong, Long Yi	Hedging and the competitive firm under ambiguous price and background risk	Bulletin of Economic Research	69	4	E1-E11	平成 29 年
A-72	Yoichiro Fujii, Hideki Iwaki and Yusuke Osaki	An economic premium principle under the dual theory of the smooth ambiguity model	Astin Bulletin	47	3	787-801	平成 29 年
A-73	Yoichiro Fujii, Mahito Okura and Yusuke Osaki	Regret and rejoicing effects on mixed insurance	Economic Modelling	58	C	126-132	平成 28 年
A-74	Masatomo Akita, Yusuke Osaki	Optimal penalty and accounting policy	Applied Economics	48	54	5292-5299	平成 28 年
A-75	尾崎祐介	曖昧性が資産価格に与える影響の考察	大阪産業大学経済論集	17	2	19-32	平成 28 年
A-76	尾崎祐介、 小川一仁、	高次リスク回避と高次リスク回避度	大阪産業大学経済論集	15	2-3	75-88	平成 26 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	後藤達也						
A-77	Hideki Iwaki, Yusuke Osaki	The dual theory of the smooth ambiguity model	Economic Theory	56	2	275-289	平成 26 年
A-78	尾崎祐介、 藤井陽一郎	不確実性が貯蓄に与える影響: 予備的貯蓄の理論的考察	大阪産業大学 経済論集	15	1	31-43	平成 26 年

潘俊毅

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-79	Junyi Shen, Takako Nakashima, Izumi Karasawa, Tatsuro Furui, Kenichiro Morishige and Tatsuyoshi Saijo	Examining Japanese Women's Preferences for a New Style of Postnatal Care Facility and Its Attributes	International Journal of Health Planning and Management	33	4	890-901	平成 30 年
A-80	Xiangdong Qin, Junyi Shen, Ken-Ichi Shimomura and Takehiko Yamato	Hometown-specific Bargaining Power in an Experimental Market in China	The Singapore Economic Review	-	-	-	平成 30 年
A-81	Qinxin Guo, Enci Wang, Yongyou Nie and Junyi Shen	Profit or Environment? A System Dynamic Model Analysis of Waste Electrical and Electronic Equipment Management System in China	Journal of Cleaner Production	194	1	34-42	平成 30 年
A-82	Yongyou Nie, Enci Wang, Qinxin Guo and Junyi Shen	Examining Shanghai Consumer Preferences for Electric Vehicles and Their Attributes	Sustainability, Article 2036	10	6	16	平成 30 年
A-83	Jun Feng, Tatsuyoshi Saijo, Junyi Shen, and Xiangdong Qin	Instability in the Voluntary Contribution Mechanism with a Quasi-linear Payoff Function: An Experimental Analysis	Journal of Behavioral and Experimental Economics	72	-	67-77	平成 30 年
A-84	Tatsuyoshi	Mate Choice Mechanism for	Journal of	72	-	1-8	平成 30 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	<u>Saijo, Junyi</u> <u>Shen</u>	Solving a Quasi-Dilemma	Behavioral and Experimental Economics				
A-85	<u>Lihui Wang,</u> <u>Junyi Shen,</u>	Examining the Factors Affecting Personal Income: An Empirical Study Based on Survey Data in Chinese Cities	Frontiers of Economics in China	12	4	515-544	平成 29 年
A-86	<u>Junyi Shen,</u> <u>Hirosasa</u> <u>Takahashi</u>	The Tangibility Effect of Paper Money and Coins in an Investment Experiment	Economics and Business Letters	6	1	1-5	平成 29 年
A-87	<u>Ping Gao,</u> <u>Junyi Shen</u>	An Empirical Analysis on the Determinants of Overweight and Obesity in China	Applied Economics	49	20	1923-1936	平成 29 年
A-88	<u>Yaling Liang,</u> <u>Junyi Shen</u>	Subjective Well-being and Its Determinants in China: An Empirical Study Based on Survey Data	Research in Applied Economics	8	3	1-18	平成 28 年
A-89	中島孝子、 森重健一 郎、瀧俊毅、 古井辰郎、 西條辰義	産科医不足のため分娩維持が困難な地域公立病院における費用便益分析	国民経済雑誌	212	5	31-46	平成 27 年
A-90	<u>Junyi Shen,</u> <u>Kazuhito</u> <u>Ogawa and</u> <u>Hirosasa</u> <u>Takahashi</u>	Examining the Tradeoff Between Fixed Pay and Performance-Related Pay: A Choice Experiment Approach	Review of Economic Analysis	6	2	119-131	平成 26 年
A-91	<u>Junyi Shen,</u> <u>Xiangdong</u> <u>Qin</u>	Cooperation, trust, and economic development: An experimental study in China	Pacific Economic Review	19	4	423-438	平成 26 年
七條達弘							
A-92	<u>Tatsuhiro</u> <u>Shichijo,</u> <u>Emiko</u> <u>Fukuda</u>	A dynamic game analysis of Internet services with network externalities	Theory and Decision				平成 31 年
奥井亮							
	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-93	<u>Yoon-Jin</u> <u>Lee,</u> <u>Ryo Okui</u> and <u>Mototsugu</u> <u>Shintani</u>	Asymptotic Inference for Dynamic Panel Estimators of Infinite Order Autoregressive Processes	Journal of Econometrics	204	2	145-158	平成 30 年
A-94	<u>Sokbae Lee,</u> <u>Ryo Okui</u>	Doubly robust uniform confidence band for the	Journal of Applied	32	7	1207-1225	平成 29 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	and Yoon-Jae Whang	conditional average treatment effect function	Econometrics				
A-95	<u>Ryo Okui</u>	Misspecification in Dynamic Panel Data Models and Model-free Inferences	Japanese Economic Review	68	3	283-304	平成 29 年
A-96	Qingfeng Liu, <u>Ryo Okui</u> and Arihiro Yoshimura	Generalized Least Squares Model Averaging	Econometric Reviews	35	8-10	1692-1752	平成 28 年
A-97	<u>Ryo Okui</u>	Asymptotically Unbiased Estimation of Autocovariances and Autocorrelations with Panel Data in The Presence of Individual and Time Effects	Journal of Time Series Econometrics	6	2	129-181	平成 26 年

高橋広雅

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
A-98	Weiye Zhang., <u>Hiromasa Takahashi</u> and <u>Junyi Shen</u>	Does Physical Exercise Affect Tradeoffs between Fixed Pay and Performance-related Pay for Individuals?	国民経済雑誌	216	6	25-46	平成 29 年
A-99	<u>Hiromasa Takahashi</u> , <u>Junyi Shen</u> and <u>Kazuhito Ogawa</u>	An Experimental Examination of Compensation Schemes and Level of Effort in Differentiated Tasks	Journal of Behavioral and Experimental Economics	61	1	12-19	平成 28 年
A-100	Nobuko Kanaya, <u>Hiromasa Takahashi</u> and <u>Junyi Shen</u>	The market share of nonprofit and for-profit organizations in the Quasi-market: Japan's long-term care services market	Annals of Public and Cooperative Economics	86	2	245-266	平成 27 年
A-101	<u>高橋広雅</u>	公共資本蓄積ゲームにお ける複数均衡	創価経済論集	43	-	1-14	平成 26 年

川村哲也

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
* A-102	<u>Tetsuya Kawamura</u> , <u>Kazuhito Ogawa</u>	<u>Cognitive ability and human behavior in experimental ultimatum games</u>	Research in Economics	-	-	-	forthcoming

森知晴 (PD(平成 26 年 10 月～平成 29 年 3 月))

A-103	森知晴、 大竹文雄	期限付きキャッシュバック制 度が退去行動に与える影響	季刊住宅土地 経済	94	-	29-35	平成 26 年
-------	--------------	-------------------------------	--------------	----	---	-------	---------

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

稲葉美里 (PD(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月))

A-104	Misato Inaba, Yumi Inoue, Satoshi Akutsu, Nobuyuki Takahashi and Toshio Yamagishi	Preference and strategy in proposer's prosocial giving in the ultimatum game	Plos One	13	3	15	平成 30 年
A-105	Misato Inaba, Nobuyuki Takahashi	The use of reputation in repeated dyadic interactions	Rationality and Society	30	1	54-79	平成 29 年

三浦貴弘 (PD(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月))

A-106	Takahiro Miura	Does time preference affect smoking behavior? A dynamic panel analysis	Journal of Behavioral and Experimental Economics	78		170-180	平成 31 年
-------	----------------	--	--	----	--	---------	---------

<図書>

小川一仁

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
* B-1	ピーター・G・モファット 著、川越敏司 監訳、會田剛史、小川一仁、佐々木俊一郎、長江亮、山根承子 訳	『経済学のための実験統計学』	勁草書房	平成 30 年	656
B-2	小川一仁、川越敏司、佐々木俊一郎	『実験マクロ経済学』	東洋経済新報社	平成 26 年	207

座主祥伸

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
B-3	座主祥伸、佐藤育己	『担保法制と資金調達』(研究叢書第 57 冊)「将来財産の担保化と研究開発」第 3 章	関西大学法学研究所	平成 30 年	97(pp.67-87)
B-4	座主祥伸	『担保法制と資金調達』(研究叢書第 57 冊)「内部担保制度の重要性:外部担保との比較」第 4 章	関西大学法学研究所	平成 30 年	97(pp.89-97)

村田忠彦

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
B-5	Shigeru Obayashi, Carlo Poloni, Tadahiko Murata	2015 IEEE Congress on Evolutionary Computation Proceedings	IEEE	平成 27 年	3425

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

## 瀧俊毅

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
B-6	瀧俊毅、 下村研一、 大和毅彦	『社会関係資本の機能と創出： 効率的な組織と社会』第 6 章 「出身地の違いが市場取引に 与える影響－中国における相 対交渉実験による検証」清水 和巳・磯辺剛彦編著 西條辰 義監修	勁草書房	平成 27 年	188
B-7	兎内祥子、 瀧俊毅	『実験が切り開く 21 世紀の社会 科学』第 5 章「われわれの価値 評価は信用できるのか？－ア ンカリング効果の実験」西條辰 義・清水和巳編著	勁草書房	平成 26 年	240

## 奥井亮

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
B-8	奥井亮、 川口大司、 古沢泰治	『進化する経済学の実証分析、 経済セミナー増刊』、「鼎談：実 証分析が切り拓く経済学の未 来」	日本評論社	平成 28 年	128(pp.2-12)
B-9	奥井亮	『日本労働研究雑誌』No. 657、 「固定効果と変量効果」	独立行政法人 労働政策研究・ 研修機構	平成 27 年	97(pp.6-10)

## 森知晴

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
B-10	森知晴、 佐々木勝	『日本の労働市場 経済学者の 視点』第 13 章「労働経済学にお ける実験的手法」川口大司編	有斐閣	平成 29 年	430(pp.342-3 66)

## 川村哲也(PD(平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月))

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
B-11	川村哲也	『人間行動と市場デザイン』第 5 章「指名競争入札における自 治体の公平性がもたらす弊害－ 経済実験によるアプローチ－」 西條辰義編	勁草書房	平成 28 年	232

## &lt;学会発表&gt;

## 小川一仁

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
* C-1	小川一仁、 川村哲也、 稲葉美里	WEAI 15th International Conference	慶應義塾大 学	平成 31 年 3 月	<u>Higher Cognitive Ability Promotes Cooperation in Infinitely Repeated PD and Deviation in Finitely Repeated PD: Experimental Evidence</u>
*	小川一仁、	進化経済学会	名古屋工業	平成 31 年 3 月	<u>Higher Cognitive Ability</u>

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

C-2	<u>川村哲也、 稲葉美里</u>		大学		<u>Promotes Cooperation in Infinitely Repeated PD and Deviation in Finitely Repeated PD: Experimental Evidence</u>
* C-3	<u>小川一仁、 川村哲也、 稲葉美里</u>	第 22 回実験社会 科学カンファレンス	名古屋市立 大学	平成 30 年 12 月	<u>Higher Cognitive Ability Promotes Cooperation in Infinitely Repeated PD and Deviation in Finitely Repeated PD: Experimental Evidence</u>
C-4	Tetsuya Kawamura, <u>Kazuhiro Ogawa</u> and <u>Yusuke Osaki</u>	第 11 回 CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics	関西大学	平成 30 年 1 月	Which determines "Dictating the Risk," risk preference or social image? – Experimental evidence –
C-5	Tetsuya Kawamura, <u>Kazuhiro Ogawa</u> and <u>Yusuke Osaki</u>	行動経済学会第 11 回大会	同志社大学	平成 29 年 12 月	Which determines "Dictating the Risk," risk preference or social image? – Experimental evidence –
C-6	Tetsuya Kawamura, Naoki Watanabe, and <u>Kazuhiro Ogawa</u>	第 21 回実験社会 科学カンファレンス	関西大学	平成 29 年 10 月	School Choice Experiments: Subject's Cognitive ability, Information and Their Behavior
C-7	Tetsuya Kawamura, <u>Kazuhiro Ogawa,</u> and <u>Keiichiro Matsushita</u>	第 21 回実験社会 科学カンファレンス	関西大学	平成 29 年 10 月	The higher (Lower) the Cognitive Ability, The More Generous The Elderly(Young): Evidence from Dictator Game Experiment
C-8	Tetsuya Kawamura, <u>Kazuhiro Ogawa,</u> and <u>Keiichiro Matsushita</u>	12th Australia New Zealand Workshop on Experimental Economics	The University of Melbourne	平成 29 年 9 月	The higher (lower) cognitive ability, the more generous the elderly (young): Evidence from dictator game experiment
C-9	Tetsuya Kawamura, <u>Kazuhiro Ogawa,</u> and <u>Keiichiro Matsushita</u>	Singapore Economic Review Conference 2017	Mandarin Orchard Singapore	平成 29 年 8 月	Investigating The Simultaneous Effect Of Aging And The Cognitive Ability On Donating Behavior: Evidence From The Experimental Dictator Games

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

* C-10	<u>小川一仁、川村哲也、稲葉美里</u>	平成 29 年度第 2 回近畿大学経済研究会	近畿大学	平成 29 年 7 月	<u>社会人参加者を用いた繰り返し囚人のジレンマゲームの検証</u>
C-11	Tetsuya Kawamura, <u>Kazuhiro Ogawa</u> , and <u>Keiichiro Matsushita</u>	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 10 回)	関西大学	平成 29 年 7 月	The higher (lower) cognitive ability, the more generous the elderly (young): Evidence from dictator game experiments
C-12	Tetsuya Kawamura, Naoki Watanabe and <u>Kazuhiro Ogawa</u>	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 10 回)	関西大学	平成 29 年 7 月	A School Choice Experiment: Students' Cognitive Ability and Their Behavior
C-13	川村哲也、依田高典、 <u>小川一仁</u>	日本応用経済学会 2017 年度春季大会	久留米大学	平成 29 年 6 月	行動経済学・フィールド実験融合の事例研究: エネルギーとクラウド・ファンディング
C-14	<u>小川一仁</u>	経済教育学会	流通科学大学	平成 28 年 9 月	「実験」を通じた複眼的思考の育て方
* C-15	Tomoharu Mori, <u>Kazuhiro Ogawa</u>	行動経済学会第 9 回大会	近畿大学	平成 27 年 11 月	<u>The Effect of Age, Gender, and Earned Income in the Trust Game: A Laboratory experiment in Japan</u>
* C-16	Tomoharu Mori, <u>Kazuhiro Ogawa</u>	ESA European Meeting 2015	University of Heidelberg	平成 27 年 9 月	<u>The Effect of Earned Income in the Trust Game: University Students vs. The Elderly</u>
* C-17	Tomoharu Mori, <u>Kazuhiro Ogawa</u>	ESA World Meetings 2015	University of Technology, Sydney	平成 27 年 7 月	<u>The Effect of Earned Income in the Trust Game: University Students vs. The Elderly</u>
* C-18	Tomoharu Mori, <u>Kazuhiro Ogawa</u>	Kyoto University Workshop on Experimental Economics	Kyoto University	平成 27 年 7 月	<u>The Effect of Earned Income in the Trust Game: University Students vs. The Elderly</u>
C-19	<u>小川一仁</u>	数理社会学会	久留米大学	平成 27 年 3 月	数理社会学会ワンステップセミナー
C-20	<u>Kazuhiro Ogawa</u> , <u>Hirohisa Takahashi</u> and Hideo Futamura	The 18th Asia Pacific Symposium on Intelligent and Evolutionary Systems	Nanyang Technological University, Singapore	平成 26 年 11 月	A Choreographer Leads the Pareto Efficient Equilibrium in the Three-Person Network Externality Games: Experimental Evidence

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

C-21	<u>Kazuhito Ogawa,</u> <u>Tatsuhiko Shichijo</u> and Takao Kusakawa	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics 第 1 回	関西大学	平成 26 年 8 月	Non-anonymous Donation Improves Social Welfare: a Dictator Game Experiment
------	--	--	------	-------------	---

本西泰三

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
* C-22	<u>本西泰三、川村哲</u> <u>也、森知晴、小川</u> <u>二仁</u>	行動経済学会第 12 回大会	慶應義塾大 学	平成 30 年 12 月	<u>特定保健指導参加勸奨</u> <u>フィールド実験</u>
C-23	<u>本西泰三</u>	Monetary Economics Workshop	関西大学	平成 30 年 11 月	Is Financial Literacy a Dangerous Thing?: Behavioral Factors and Financial Choices of Consumers
C-24	<u>本西泰三</u>	日本経済政策学会 関西西部会 2014 年 度大会	関西大学	平成 27 年 3 月	Risk Aversion and the Great East Japan Earthquake

小林創

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-25	<u>Jieyi Duan, Hajime</u> <u>Kobayashi</u> and <u>Tatsuhiko Shichijo</u>	行動経済学会	慶應義塾大 学	平成 30 年 12 月	Does cheap talk promote coordination under asymmetric information? An experimental study on global games
C-26	<u>Jieyi Duan,</u> <u>Hajime Kobayashi</u> and <u>Tatsuhiko Shichijo</u>	全国ゲーム理論及 び実験経済学会 2018 年学術年会	中国広州、 暨南大学	平成 30 年 9 月	Does cheap talk promote coordination under asymmetric information? An experimental study on global games
C-27	<u>Kobayashi, Hajime,</u> <u>Tatsuhiko Shichijo,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	Economic Science Association Conference World Meeting	University of California, San Diego Rady School of Management	平成 29 年 6 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
C-28	<u>段杰一、小林創、</u> <u>草川孝夫、西條辰</u> <u>義、七條達弘</u>	第 11 回行動経済 学会	同志社大学	平成 29 年 12 月	Cooperation in prisoner's dilemma by letting bygones be bygones: an inter-generational experiment
C-29	<u>清水崇、神谷和</u> <u>也、小林創、七條</u> <u>達弘</u>	日本経済学会 2017 年度春季大 会	立命館大学	平成 29 年 6 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
C-30	Jieyi Duan,	Asian-Pacific	National	平成 29 年 2 月	Cooperation in Prisoner's

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	<u>Hajime Kobayashi</u> , Takao Kusakawa, Tatsuyoshi Saijo, and <u>Tatsuhiko</u> <u>Shichijo</u>	meeting of Economic Science Association	Taiwan University		Dilemma by Letting Bygones Be Bygones: An Overlapping Generations Experiment
C-31	<u>Hajime Kobayashi</u> , <u>Tatsuhiko Shichijo</u> , Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	2016 North American meetings of the Economic Science Association	Tucson, Arizona	平成 28 年 11 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
C-32	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi</u> , <u>Tatsuhiko Shichijo</u> , and Takashi Shimizu	2016 North American meetings of the Economic Science Association	Tucson, Arizona	平成 28 年 11 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
C-33	Jieyi Duan, <u>Hajime Kobayashi</u> , Takao Kusakawa, Tatsuyoshi Saijo, and <u>Tatsuhiko</u> <u>Shichijo</u>	第 20 回実験社会 科学コンファレンス	同志社大学	平成 28 年 10 月	Cooperation in Prisoner's Dilemma by Letting Bygones Be Bygones: An Overlapping Generations Experiment
C-34	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi</u> , <u>Tatsuhiko Shichijo</u> , and Takashi Shimizu	2016 Asian Meeting of Econometric Society	Kyoto, Japan	平成 28 年 8 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
C-35	<u>Hajime Kobayashi</u> , <u>Tatsuhiko Shichijo</u> , Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	2016 Asian Meeting of Econometric Society	Kyoto, Japan	平成 28 年 8 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
C-36	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi</u> , <u>Tatsuhiko Shichijo</u> , and Takashi Shimizu	The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations	東京大学	平成 28 年 3 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
C-37	<u>Hajime Kobayashi</u> , <u>Tatsuhiko Shichijo</u> , Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	ゲーム理論ワーク ショップ 2016	東京大学	平成 28 年 3 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

C-38	<u>Hajime Kobayashi,</u> <u>Tatsuhiro Shichijo,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations	大阪大学	平成 27 年 12 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
C-39	<u>Hajime Kobayashi,</u> Katsunori Ohta and Tadashi Sekiguchi	2015 World Congress of Econometric Society	Montréal, Canada	平成 27 年 8 月	Repeated Partnerships with Decreasing Returns
C-40	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi,</u> <u>Tatsuhiro Shichijo,</u> and Takashi Shimizu	Kyoto University and Kansai University Joint Workshop on Experimental Economics	京都大学	平成 27 年 7 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
C-41	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi,</u> <u>Tatsuhiro Shichijo,</u> and Takashi Shimizu	理論・計量経済学 セミナー	大阪府立大 学	平成 27 年 6 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
C-42	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi,</u> <u>Tatsuhiro Shichijo,</u> and Takashi Shimizu	ミクロ経済学・ゲー ム理論研究会	京都大学	平成 27 年 5 月	Price and Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
C-43	<u>小林創、七條達</u> <u>弘、鹿野繁樹、山</u> <u>川敬史、太田勝</u> <u>憲、西條辰義</u>	Contract Theory Workshop	立命館大学	平成 27 年 2 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
C-44	<u>小林創、七條達</u> <u>弘、鹿野繁樹、山</u> <u>川敬史、太田勝</u> <u>憲、西條辰義</u>	第 3 回京都大学実 験経済学ワークシ ョップ	京都大学	平成 27 年 1 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
C-45	<u>小林創、七條達</u> <u>弘、鹿野繁樹、山</u> <u>川敬史、太田勝</u> <u>憲、西條辰義</u>	ミクロ経済学・ゲー ム理論ワークショップ	京都大学	平成 26 年 12 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
C-46	<u>小林創、七條達</u> <u>弘、鹿野繁樹、山</u> <u>川敬史、太田勝</u>	第 20 回 DC コンフ アレンス	福岡大学	平成 26 年 10 月	Information Accumulation in Repeated Games with

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	憲、西條辰義				Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
C-47	Koji Abe, <u>Hajime Kobayashi</u> , and Hideo Suehiro	2014 North American meetings of the Economic Science Association	-	平成 26 年 10 月	Experiments on the Emergence of Leadership in Teams
C-48	<u>小林創</u> 、 <u>七條達弘</u> 、 <u>鹿野繁樹</u> 、 <u>山川敬史</u> 、 <u>太田勝憲</u> 、 <u>西條辰義</u>	第 58 回 数理社会学会大会	日本女子体育大学	平成 26 年 8 月	不完全公的観測を伴う繰り返しゲームにおける情報蓄積の効果
C-49	Koji Abe, <u>Hajime Kobayashi</u> , and Hideo Suehiro	2014 European meetings of the Econometric Society	-	平成 26 年 8 月	Experiments on the Emergence of Leadership in Teams

## 長久領 幸

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-50	<u>Ryoichi Nagahisa</u> , <u>Eiichi Miyagawa</u> and <u>Koichi Suga</u>	The 14th SAET Conference	Waseda University	平成 26 年 8 月	An Axiomatic Approach to the Design for Moral Codes
C-51	<u>Ryoichi Nagahisa</u> , <u>Tomoyuki Kamo</u>	The 12th Meeting of Society for Social Choice and Welfare	Boston College, USA	平成 26 年 6 月	Arrowian Social Choice with Psychological Thresholds
C-52	<u>Ryoichi Nagahisa</u> , <u>Tomoyuki Kamo</u>	The 12th Meeting of Society for Social Choice and Welfare	Boston College, USA	平成 26 年 6 月	Acyclic Rational Choice with Indifference-Transitivity

## 座主 祥伸

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-53	<u>Yoshinobu Zasu</u>	Finance and Economics Conference 2014	Marriott Hotel, Munich, Germany	平成 26 年 8 月	Legal Difference Regarding Inside Collateral
C-54	<u>座主 祥伸</u>	日本法と経済学会	駒沢大学	平成 26 年 7 月	担保に関する法制度の相違と外部ファイナンスへの効果

## 村田 忠彦

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-55	<u>Tadahiko Murata</u>	AESCS 2018 (Narita, Japan, March 2018)	国際医療福祉大学	平成 30 年 3 月	Platform for Real-Scale social simulation
C-56	<u>Tadahiko Murata</u>	Cyber HPC Symposium 2018、招待講演	大阪大学サイバーメディアセンター本館	平成 30 年 3 月	高性能計算機を用いたリアルスケール社会シミュレーションの基盤構築

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

C-57	Sho Sugiura, <u>Tadahiko Murata</u> and Takuya Harada	Booth 216: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 17 研究展示(ポスター 発表)	Denver, USA	平成 29 年 11 月	Income Allocation to Each Worker by Industry Type in Synthetic Population
C-58	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 216: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 17 研究展示(ポスター 発表)	Denver, USA	平成 29 年 11 月	Estimation of Time of Construction for Houses of Synthesized Households on the Map
C-59	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 14 回社会システ ム部会研究会資料 研究展示(ポスター 発表)	東京	平成 29 年 8 月	公共施設との距離を考 慮した仮想個票へ建築 時期を付加する手法の 検討
C-60	<u>Tadahiko Murata</u>	IEEE SMC Society Executive Committee Workshop、招待講 演	九州大学	平成 29 年 6 月	Real-Scale Social Simulation: Challenges and Perspectives
C-61	Daiki Masui, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3364: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 16	Salt Lake City, USA	平成 28 年 11 月	Households Generation for Agent-Based Social Simulations
C-62	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3364: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 16	Salt Lake City, USA	平成 28 年 11 月	Accelerating Reproducible Social Simulations by GPGPU

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

C-63	Nisuo Du, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3364: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 16	Salt Lake City, USA	平成 28 年 11 月	Nation Wide Pension Simulation by Household and Prefecture
C-64	<u>Tadahiko Murata</u>	ICMLC & ICWAPR 2016	Maison Glad Jeju, Jeju Island, South Korea	平成 28 年 7 月	Awareness Computing Using Large-Scale Social Simulation – Challenges and Perspectives –
C-65	<u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 社会システム部会 第 10 回研究会	大濱信泉記 念館、沖縄 県石垣市	平成 28 年 3 月	大規模社会シミュレーシ ョンの課題と展望
C-66	<u>Tadahiko Murata</u>	The Fifth International Conference on Fuzzy and Neural Computing (FANCCO 2015)	Hyderabad, India	平成 27 年 12 月	Evolutionary Fuzzy Systems – History and Recent Developments
C-67	Yumi Hamaguchi, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 15	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Influence on Candidates by Reforming Entrance Examinations for Universities in Japan
C-68	Syo Sugiura, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 15	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Agent Simulation for Analyzing An Income Gap under A Consumption Tax Increase
C-69	Daiki Masui, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Comparing Households in Artificial Population for Verifying Accuracy of Reconstruction Method

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

		Analysis: SC 15			
C-70	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 15	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Reproducible Simulation Model Using CPU and GPU
C-71	Du Nisuo, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 15	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Income Replacement By Prefecture In Japanese Pension System
C-72	<u>Tadahiko Murata</u>	2015 International Workshop on Complex Systems and Their Modeling, Control, Scheduling, and Security Management	Macau, China	平成 27 年 10 月	Social Simulation Using/Creating Big Data
C-73	<u>Tadahiko Murata</u> , Du Nisuo	International Conference on Computational and Financial Econometrics	Pisa, Italy	平成 26 年 12 月	Income Replacement Ratio for Varipous Households in National Pension Program in Japan
C-74	Syo Sugiura, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3939: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC14. 研究展示	New Orleans, USA	平成 26 年 11 月	Agent Simulation for Economic Growth Under A Consumption Tax Increase in Japan
C-75	Daiki Masui, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3939: IEEE/ACM International Conference for	New Orleans, USA	平成 26 年 11 月	Reconstruct of Agents' Attributes by Simulated Annealing for Minimizing Errors from Statistics

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

		High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC14. 研究展示			
C-76	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3939: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC14. 研究展示	New Orleans, USA	平成 26 年 11 月	Speed Up Large-Scale and Multi-Trial Agent-Based Simulation Using GPGPU
C-77	Du Nisuo, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3939: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC14. 研究展示	New Orleans, USA	平成 26 年 11 月	Income Replacement Ration and Marital Relationship in Pension System Using Agent Simulation

稲葉美里

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-78	<u>Misato Inaba,</u> Takayuki Miura, Akitoshi Muramoto and <u>Kazuhito Ogawa</u>	福井県立大学経済学部研究会	福井県立大学	平成 31 年 1 月	Price Announcement Effects in Sequential Auctions: An Experimental Study
C-79	舘石和香葉、 <u>稲葉美里</u> 、高橋伸幸	日本人間行動進化学会第 11 回大会	高知工科大学	平成 30 年 12 月	信頼する意図の伝達が相手の信頼性に与える効果
C-80	<u>稲葉美里</u> 、北梶陽子	日本人間行動進化学会第 11 回大会	高知工科大学	平成 30 年 12 月	資源分配データの分析：組成データ解析の進化的研究への適用可能性
* C-81	<u>稲葉美里</u> 、 <u>川村哲也</u> 、 <u>小川一仁</u>	日本社会心理学会第 59 回大会	追手門学院大学	平成 30 年 8 月	<u>公共財問題における内生的な制度形成の効果</u>
C-82	北梶陽子、 <u>稲葉美里</u>	日本社会心理学会第 59 回大会	追手門学院大学	平成 30 年 8 月	入れ子型の社会的ジレンマにおける協力行動の推移と罰の効果
C-83	<u>Misato Inaba</u> ,	The 30th Annual	Amsterdam	平成 30 年 7 月	Second-Order

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

Nobuyuki Takahashi	Meeting of the Human Behavior and Evolution Society			Reputation in a Linked game.
--------------------	---	--	--	------------------------------

## 小田秀典(宗兵衛)

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-84	小田秀典(宗兵衛)、 <u>謬蓄</u>	An experimental study of income redistribution: people's opinion and their guess	上海理工大学	平成 30 年 9 月	An experimental study of income redistribution: people's opinion and their guess
C-85	Yan Zhou, Masashi Kasaki and <u>Sobei H.Oda</u>	Consciousness and Intention in Economics and Philosophy	Kyoto Sangyo University	平成 27 年 12 月	An experimental economics approach to the Knobe effect
C-86	和泉悠、笠木雅史、周艶、 <u>小田宗兵衛</u>	2015 年度哲学若手研究者フォーラム	国立オリンピック記念青少年総合センター	平成 27 年 7 月	実験哲学と言語哲学: 確定記述と作られた文化的差異
C-87	Masashi Kasaki, Yan Zhou and <u>Sobei H.Oda</u>	6th Conference of Experimental Philosophy Group UK: Joining Forces of Philosophy and the Empirical Sciences to Tackle Social Injustices (ポスター発表)	University of Nottingham	平成 27 年 6 月	The Knobe Effect in Japanese: How Intentionality Judgements are (not) Affected by Cultural Differences
C-88	Yan Zhou, Masashi Kasaki and <u>Sobei H.Oda</u>	6th Conference of Experimental Philosophy Group UK: Joining Forces of Philosophy and the Empirical Sciences to Tackle Social Injustices	University of Nottingham	平成 27 年 6 月	The Knobe Effect reconsidered: Uncertainty, Expectation and Relativity in the judgment of intentionality
C-89	Toshiaki Akinaga, Yan Zhou and <u>Sobei H.Oda</u>	the 21st International Conference on Computing in Economics and Finance (CEF2015)	National Chengchi University, Taipei, Taiwan	平成 27 年 6 月	How Monetary Rewards Dominate Subjects' Self-Satisfaction of Winning a Game
C-90	Yan Zhou, Masashi Kasaki and <u>Sobei H.Oda</u>	the 21st International Conference on Computing in Economics and	National Chengchi University, Taipei, Taiwan	平成 27 年 6 月	An experimental economics approach to the Knobe effect

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	Finance (CEF2015)			
C-91	Haron Hasnah, <u>Sobei H. Oda</u>	International Conference on Management Hospitality & Tourism, and Accounting (IMHA) 2014	Grand Royal Panghegar Hotel and Convention in Bandung, West Java, Indonesia.	平成 26 年 9 月  Ethics and Corporate Social Responsibility of Smes in Japan –Lessons Learnt

尾崎祐介

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-92	Takao Asano, <u>Yusuke Osaki</u>	第二回 関西学院 大学-KIER シン ポジウム「グロー バル化と不確実性 の経済分析」	関西学院大 学	平成 30 年 1 月	Optimal investment under ambiguous technological shock
C-93	Takao Asano, <u>Yusuke Osaki</u>	5-th Paris Financial Management Conference	Paris, France	平成 29 年 12 月	Portfolio allocation problems between risky and ambiguous assets
C-94	Yoichiro Fujii, Mahito Okura and <u>Yusuke Osaki</u>	日本経営財務研究 学会第 41 回大会	関西大学	平成 29 年 9 月	Mixed insurance as optimal policy under rejoicing sensitivity
C-95	Yoichiro Fujii, Mahito Okura and <u>Yusuke Osaki</u>	21st Annual Conference of Asia-Pacific Risk and Insurance Association	Poznan, Poland	平成 29 年 7 月	Mixed insurance as optimal policy under rejoicing sensitivity
C-96	Takao Asano, <u>Yusuke Osaki</u>	日本ファイナンス 学会第 25 回大会	千葉工業大 学	平成 29 年 6 月	Portfolio allocation problems between risky and ambiguous asset
C-97	Hideki Iwaki, <u>Yusuke Osaki</u>	The 4th East Asia RMI Insurance Workshop	KonKuk University, Seoul, Korea	平成 29 年 1 月	Comparative Statics and Portfolio Choices under the Phantom Decision Model
C-98	Mahito Okura, Yoichiro Fujii and <u>Yusuke Osaki</u>	The Third East Asia RMI Insurance Workshop	Feng Chia University, Taichung, Taiwan	平成 28 年 1 月	Superior and Inferior Goods in an Insurance Market under Regret
C-99	Yoichiro Fujii, Hideki Iwaki and <u>Yusuke Osaki</u>	The Third World Risk and Insurance Economics Congress	Ludwig-Maxi milians-Univ ersitaet (LMU Munich)	平成 27 年 8 月	An Equilibrium Asset Pricing Model under Ambiguity

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

C-100	Yoichiro Fujii, Mahito Okura and <u>Yusuke Osaki</u>	The Third World Risk and Insurance Economics Congress	Ludwig-Maxi milians-Univ ersitaet (LMU Munich)	平成 27 年 8 月	Regret and Rejoicing Effects on Mixed Insurance
C-101	<u>尾崎祐介</u> 、 Kit Pong Wong、 Long Yi	第 23 回日本ファイ ナンス学会	東京大学	平成 27 年 6 月	Hedging and the Competitive Firm under Ambiguous Price and Background Risk
C-102	<u>Yusuke Osaki</u> , Yoichiro Fujii and Mahito Okura	The Second East Asia RMI Insurance Workshop	Kyoto Sangyo University	平成 27 年 1 月	Regret Aversion and Demand for Mixed Insurance
C-103	<u>尾崎祐介</u>	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics 第 2 回	関西大学	平成 26 年 10 月	高次リスク回避度の実験 —最近の研究動向につ いて—
C-104	<u>尾崎祐介</u>	日本経営財務研究 学会第 38 回全国 大会	明治大学	平成 26 年 10 月	Optimal Penalty and Accounting Policy
C-105	<u>尾崎祐介</u>	日本経営財務研究 学会第 1 回ファイナ ンスキャンプ	六甲スカイ ・ヴィラ	平成 26 年 7 月	Portfolio Choice and Ambiguous Background Risk
C-106	Yoichiro Fujii, Mahito Okura and <u>Yusuke Osaki</u>	2014 Annual Conference of Asia Pacific Risk and Insurance Association	Moscow State University	平成 26 年 7 月	Regret Aversion and Demand for Mixed Insurance
C-107	<u>尾崎祐介</u> 、Harris Schlesinger	第 22 回日本ファイ ナンス学会	中央大学	平成 26 年 6 月	Portfolio Choice and Ambiguous Background Risk

## 瀋俊毅

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-108	<u>Junyi Shen</u>	第 21 回神戸経済 経営フォーラム	神戸商工会 議所	平成 29 年 2 月	行動経済学の視点から 見る中国人の経済行動
C-109	<u>瀋俊毅</u>	-	北京大学	平成 27 年 12 月	Gender-specific reference dependent preference in the experimental trust game
C-110	<u>瀋俊毅</u>	-	南洋理工大 学	平成 27 年 4 月	An experimental examination of compensation schemes and level of effort in differentiated tasks
C-111	<u>瀋俊毅</u>	-	ケープタウン 大学	平成 27 年 2 月	Cooperation, trust, and economic development: Experimental evidence in

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

				China
C-112	<u>潘俊毅</u>	The 2nd Hanyang-Kobe-Nanyang Conference in Economics (司会・討論者)	神戸大学	平成 26 年 5 月
				Tax or Transfer? The Framing Effect of Redistribution Policy: Experimental Evidence

七條達弘

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-113	<u>禿寿、七條達弘、小川一仁</u>	行動経済学会	慶應義塾大学	平成 30 年 12 月	ミニマムゲームにおける連続時間チープトークの効果
C-114	<u>Tatsuhiko Shichijo, Emiko Fukuda</u>	ミクロ経済学・ゲーム理論研究会	京都大学経済研究所	平成 30 年 3 月	Cost-sharing mechanism for a good with positive or negative network externalities
C-115	<u>Takao Kusakawa, Tatsuhiko Shichijo and Kazuhito Ogawa</u>	2018 Asia Pacific Economic Science Association Conference	Queensland University of Technology (Australia)	平成 30 年 2 月	Strategic donation as a signal to cooperate: a laboratory experiment
C-116	<u>七條達弘、禿寿、小川一仁</u>	第 21 回実験社会科学カンファレンス	関西大学	平成 29 年 10 月	ミニマムゲームにおける非効率性に関する研究
C-117	<u>七條達弘、禿寿、小川一仁</u>	第 64 回数理社会学会大会	札幌学院大学	平成 29 年 9 月	ミニマムゲームにおける非効率性を生む行動に関する研究
C-118	<u>Tatsuhiko Shichijo, Emiko Fukuda</u>	関西ゲーム理論研究会	大阪経済大学	平成 29 年 7 月	Cost-sharing mechanism for a good with positive or negative network externalities
C-119	<u>七條達弘、福田恵美子</u>	日本経済学会 2017 年度春季大会	立命館大学	平成 29 年 6 月	Cost sharing mechanism for a good with positive or negative network externalities
C-120	<u>Tatsuhiko Shichijo, Emiko Fukuda</u>	関西大学経済学研究会	関西大学	平成 29 年 5 月	Cost-sharing mechanism for a good with positive or negative network externalities
C-121	<u>Tatsuhiko Shichijo, Takao Kusakawa, Takehito Masuda, Emiko Fukuda and Tatsuyoshi Saijo</u>	Kyoto University and Kansai University Joint Workshop on Experimental Economics	京都大学	平成 27 年 7 月	A Deposit-refund Scheme for the Diffusion of Goods with Network Externalities
C-122	<u>Toru Hokari, Tatsuhiko Shichijo</u>	SSK International Conference on Distributive Justice in Honor of	Thomson Hotel Ibis Seoul Myeong-Don	平成 26 年 10 月	Subgame-perfect Equilibria in An infinite-horizon Network Formation Game

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	Professor William	,Korea			
C-123	藤山英樹、 七條達弘	第 58 回 数理社会 学会大会	日本女子体 育大学	平成 26 年 8 月	SNS 内におけるネットワ ーク構造と行為(日記執 筆)の共進化
C-124	Tatsuhiko Shichijo, Takao Kusakawa, Takehito Masuda, Emiko Fukuda and Tatsuyoshi Saijo	2014 ESA International Meetings	Honolulu, Hawaii,USA	平成 26 年 6 月	Designing A Mechanism to Cope with ex post Coordination Failure

奥井亮

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-125	<u>Ryo Okui</u>	Japan-Korea Allied Conference in Econometrics	Hitotsubashi University	平成 28 年 11 月	Confidence Set for Group Membership
C-126	<u>Ryo Okui</u>	Centre for Panel Data Analysis (PanDA) and 9th York Econometrics Symposium	University of York	平成 28 年 7 月	Confidence Set for Group Memberships
C-127	Yoshiaki Ogura, <u>Ryo Okui</u> and Yukiko Umeno Saito	The Financial Intermediation Research Society (FIRS) Conference	Lisobn	平成 28 年 6 月	Network-motivated Lending Decisions
C-128	<u>Ryo Okui</u> , Takahide Yanagi	UvA-Econometrics Panel Data Workshop	Amsterdam	平成 28 年 3 月	Panel data analysis with heterogeneous dynamics
C-129	<u>Ryo Okui</u> , Takahide Yanagi	Cemmap seminar	University College London	平成 27 年 11 月	Panel data analysis with heterogeneous dynamics
C-130	<u>Ryo Okui</u> , Sokbae Lee and Yoon-Jae Whang	計量経済学ワーク ショップ	慶應義塾大 学	平成 27 年 10 月	Doubly Robust Uniform Confidence Band for The Conditional Average Treatment Effect Function
C-131	<u>Ryo Okui</u> , Takahide Yanagi	Seminar at Tinbergen Institute	Tinbergen Institute, Amsterdam	平成 27 年 9 月	Analysis with Heterogeneous Dynamics
C-132	<u>Ryo Okui</u> , Takahide Yanagi	Econometric Society World Congress	Montreal	平成 27 年 8 月	Panel Data Analysis With Heterogeneous Dynamics
C-133	<u>Ryo Okui</u> , Sokbae Lee and Yoon-Jae Whang	The Applied Statistics Workshop	東京大学	平成 27 年 7 月	Doubly Robust Uniform Confidence Band for the Conditional Average Treatment Effect Function

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

C-134	<u>Ryo Okui,</u> Takahide Yanagi	10th Netherlands Econometric Study Group Meeting	Maastricht University	平成 27 年 6 月	Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics
C-135	<u>Ryo Okui</u>	日本経済学会春季 大会	新潟大学	平成 27 年 5 月	Misspecification in dynamic panel data models and model-free inferences
C-136	<u>Ryo Okui,</u> Takahide Yanagi	Princeton-QUT-S JTU-SMU conference	Singapore Management University	平成 27 年 4 月	Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics
C-137	<u>Ryo Okui,</u> Takahide Yanagi	Hitotsubashi-Soga ng Conference on Econometrics	Sogang University, Seoul	平成 26 年 12 月	Dynamic Panel Data Analysis when the Dynamics are Heterogeneous
C-138	Yoon-Jin Lee, <u>Ryo Okui,</u> and Mototsugu Shintani	EGC Seminars	Nanyang Technologic al University, Singapore	平成 26 年 8 月	Asymptotic Inference for Dynamic Panel Estimators of Infinite Order Autoregressive Processes
C-139	<u>Ryo Okui,</u> Takahide Yanagi	Summer Workshop on Economic Theory (SWET2014)	小樽商科大 学	平成 26 年 8 月	Dynamic Panel Data Analysis when the Dynamics are Heterogeneous
C-140	<u>Ryo Okui,</u> Takahide Yanagi	Mini-conference in Microeconometrics 2014 in Hakone	箱根	平成 26 年 6 月	Dynamic Panel Data Analysis when the Dynamics are Heterogenous
C-141	<u>Ryo Okui,</u> Takahide Yanagi	IAS Workshop on Advances in Microeconometrics	Hong Kong University of Science and Technology	平成 26 年 5 月	Dynamic Panel Data Analysis when the Dynamics are Heterogeneous

## 高橋広雅

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-142	<u>高橋広雅</u>	日本経済学会 2018 年度秋季大 会	学習院大学	平成 30 年 9 月	Joint Borrowing Limit Game
C-143	<u>高橋広雅</u>	進化経済学会第 20 回大会	東京大学	平成 28 年 3 月	Reconsidering whether women are less selfish than men
C-144	<u>Hiromasa Takahashi,</u> <u>Junyi Shen</u> and <u>Kazuhito Ogawa</u>	実験経済学ワーク ショップ(ポスター 報告)	京都大学	平成 27 年 7 月	Gender-specific Reference Dependent Preferences in the Experimental Trust Game
C-145	<u>高橋広雅</u>	関西大学経済実験 センター主催ワー クショップ「日本に	関西大学	平成 27 年 3 月	携帯電話を用いた簡易 経済実験システムにつ いて

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	おける経済. 実験 環境のコンソーシ アム化をめざして」			
--	------------------------------------	--	--	--

森知晴 (PD(平成 26 年 10 月～平成 29 年 3 月))

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-146	Tomoharu Mori, Yasuhiro Nakamoto and Naoko Okuyama	The 1st Workshop on Behavioral Economics of Social Norm and Public Moral	大阪大学会 館	平成 29 年 3 月	Ambiguity aversion and framing effect in the insurance demand for low-probability losses
C-147	Tomoharu Mori, Yasuhiro Nakamoto and Naoko Okuyama	ESA Asia-Pacific Meeting	Taipei	平成 29 年 2 月	Ambiguity aversion and framing effect in the insurance demand for low-probability losses
C-148	Tomoharu Mori	ESA Asia-Pacific Meeting	National Taiwan University	平成 29 年 2 月	Ambiguity aversion and framing effect in the insurance demand for low-probability losses
C-149	森知晴	第 6 回明治大学経 済学コンファレンス	明治大学	平成 28 年 3 月	所得税と消費税の好み に関する選択実験
C-150	Hirofumi Kurokawa, Tomoharu Mori, and Fumio Ohtake	第 6 回明治大学経 済学コンファレンス	明治大学	平成 28 年 3 月	A Choice Experiment on Taxes: Are Income and Consumption Taxes Equivalent?
C-151	大竹文雄、 黒川博文、 森知晴	The Osaka Workshop on Economics of Institution and Organization	大阪大学	平成 27 年 12 月	所得税と消費税の好み に対する選択実験
C-152	大竹文雄、 黒川博文、 森知晴	公共選択学会第 19 回大会	明海大学	平成 27 年 11 月	所得税と消費税の好み に対する選択実験
C-153	森知晴	第 3 回京都大学実 験経済学ワークシ ョップ	京都大学	平成 27 年 2 月	The Costs and Benefits of Control in the Field: A Field Experiment
C-154	森知晴	関西労働研究会	大阪大学	平成 26 年 11 月	Income, Giving, and Egalitarianism: A real-effort Experiment in Japan
C-155	森知晴	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics	関西大学	平成 26 年 10 月	期限付きキャッシュバッ ク制度が退去行動に与 える影響: 大阪市住宅供 給公社の事例
C-156	森知晴	日本経済学会秋季 大会	西南学院大 学	平成 26 年 10 月	Income, Giving, and Egalitarianism: A Real-effort Experiment

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

				in Japan
--	--	--	--	----------

川村哲也 (PD(平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月))

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-157	Tetsuya Kawamura	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 9 回)	関西大学	平成 28 年 12 月	Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games
C-158	Tetsuya Kawamura	高知工科大学フューチャーデザイン研究センター公開ワークショップ	高知工科大学	平成 28 年 10 月	Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games
C-159	Tetsuya Kawamura	11th Annual Australia New Zealand Workshop on Experimental Economics	University of Queensland, Brisbane (Australia)	平成 28 年 9 月	Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games
C-160	Tetsuya Kawamura	経済学・ゲーム理論セミナー	筑波大学	平成 28 年 2 月	Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games
C-161	Tetsuya Kawamura	CEE and RISS seminar series on experimental economics (第 6 回)	関西大学	平成 27 年 12 月	How to Promote Crowd Funding for R&D in New Sources of Energy -Evidence from Online Field Experiment-
C-162	Tetsuya Kawamura	Poster session in Kyoto University Workshop on Experimental Economics (with Applied Microeconomics Seminar)	京都大学	平成 27 年 9 月	How to Promote Crowd Funding for R&D in New Sources of Energy -Evidence from Online Field Experiment-

稲葉美里 (PD(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月))

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-163	Nobuyuki Takahashi, Misato Inaba	The 14th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences	Osnabrueck	平成 30 年 3 月	Voting with their feet promotes mutual cooperation.
C-164	稲葉美里、高橋伸幸、犬塚敦也	日本社会心理学会 第 58 回大会	広島大学	平成 29 年 10 月	格差が社会関係資本に与える影響.

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

C-165	稲葉美里	日本心理学会第81回大会	久留米シティプラザ	平成 29 年 9 月	連結による協力問題の解決 - 評判を用いることの適応価の解明 -
C-166	Misato Inaba, Nobuyuki Takahashi and Seina Katsuura	The 17th International Conference on Social Dilemmas	Taormina	平成 29 年 7 月	Which type of sanctioning institution is the most attractive and effective?

村本顕理 (PD(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月))

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
C-167	Akifumi Ishihara, Akitoshi Muramoto	2019 Australasian Economic Theory Workshop	UTS Business School	平成 31 年 2 月	Rents and Signals in Relational Contracts for Teams
C-168	Akifumi Ishihara, Akitoshi Muramoto	East Asian Contract Theory Conference	Korea University	平成 30 年 12 月	Rents and Signals in Relational Contracts for Teams
C-169	Akitoshi Muramoto, Ryuji Sano	Contract Theory Workshop Summer Camp	釧路公立大学	平成 30 年 8 月	Sequential auctions with common budget constraints
C-170	Akitoshi Muramoto, Ryuji Sano	関西ゲーム理論研究会	大阪経済大学	平成 30 年 7 月	Sequential auctions with common budget constraints

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

[平成 26 年度]

<CEE Workshop>

URL: <http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t110032/CEEWS.html>

・第1回 関西大学経済実験センター ワークショップ

テーマ: 日本における経済実験環境のコンソーシアム化をめざして

日時: 平成 27 年 3 月 17 日(火)9 時 30 分～18 時 00 分

平成 27 年 3 月 18 日(水)9 時 30 分～17 時 30 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ、5 階経済実験センター実験室

<CEE and RISS Seminar Series>

URL: <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 1 回)

日時: 平成 26 年 8 月 29 日(金)14 時 00 分～16 時 40 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: The effect of market exchange on the devision of labour (with Kengo Kurosaka)

第 1 報告者: 犬飼佳吾(大阪大学社会経済研究所助教)

第 2 報告題目: Non-anonymous donation improves social welfare: a dictator game experiment (with Tatsuhiro Shichijo, Takao Kusakawa)

第 2 報告者: 小川一仁(関西大学社会学部准教授/CEE センター長)

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 2 回)

日時: 平成 26 年 10 月 31 日(金)14 時 00 分～17 時 30 分

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: 高次リスク回避度の実験—最近の研究動向について—

第 1 報告者: 尾崎祐介(大阪産業大学経済学部准教授/CEE 研究員)

第 2 報告題目: サービス類型化と設計理論の構築に向けて: プロジェクトの紹介とこれまでの取り組み

第 2 報告者: 西野成昭(東京大学大学院工学系研究科准教授)

第 3 報告題目: 期限付きキャッシュバック制度が退去行動に与える影響: 大阪市住宅供給公社の事例

第 3 報告者: 森 知晴(関西大学経済実験センターPD)

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 3 回)

日時: 平成 27 年 1 月 10 日(金) 14 時 00 分~16 時 10 分

場所: 関西大学 RISS 6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: Risk aversion and the Great East Japan Earthquake

第 1 報告者: 本西泰三(関西大学経済学部教授/CEE 研究員)

第 2 報告題目: 未婚者の恋愛行動分析

第 2 報告者: 西村智(関西学院大学経済学部教授)

<CEE Seminar>

URL: <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

・経済実験センター セミナー

日時: 平成 27 年 2 月 3 日(火) 14 時 00 分~15 時 30 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

報告題目: It is not just confusion! Strategic uncertainty in an experimental asset market (joint work with Eizo Akiyama and Ryuichiro Ishikawa)

報告者: 花木伸行(Professor, Aix-Marseille University, France)

[平成 27 年度]

<CEE International Conference>

URL: <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

・RISS 13th International Conference & CEE 1st International Conference(1 日目)

テーマ: Frontiers in Experimental Economics –Applications to Human Behavior in the Field, Organizations and Macroeconomic Phenomena–

日時: 平成 27 年 7 月 11 日(土) 13 時 00 分~18 時 00 分

場所: 関西大学尚文館7階特別会議室

第 1 報告題目: Adoption of a New Payment Method: Theory and Experimental Evidence

第 1 報告者: John Duffy(Professor, University of California, Irvine, USA)

第 2 報告題目: Group Identity Promotes Altruistic Lending: Evidence from Online Microfinance

第 2 報告者: Yan Chen(Professor, University of Michigan, USA)

第 3 報告題目: Do Leaders Affect Ethical Conduct?

第 3 報告者: Benjamin E. Hermalin(Professor, University of California, Berkeley, USA)

第 4 報告題目: Group Identity Promotes Altruistic Lending: Evidence from Online Microfinance

第 4 報告者: Roberto A. Weber(Professor, University of Zurich, Switzerland)

・RISS 13th International Conference & CEE 1st International Conference(2 日目)

テーマ: Introduction to the Project of RISS & CEE and Joint Research Opportunities

日時: 平成 27 年 7 月 12 日(日) 10 時 00 分~12 時 00 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: Introduction to our project

第 1 報告者: Kazuhito Ogawa(Director, Center for Experimental Economics, Kansai University)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

第 2 報告題目: Experiments on the Emergence of Leadership in Teams

第 2 報告者: Hajime Kobayashi (Professor, Kansai University)

<CEE and RISS Seminar Series>

URL: <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 4 回)

日時: 平成 27 年 6 月 12 日(金) 14 時 00 分～16 時 10 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: What is 'Fair' Distribution under Collaboration?: Evidences from Lab-Experiments

第 1 報告者: 徳丸夏歌(京都大学経済学研究科附属プロジェクトセンター講師)

第 2 報告題目: An axiomatic approach to the design of moral codes

第 2 報告者: 長久領壺(関西大学経済学部教授/CEE 研究員)

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 5 回)

日時: 平成 27 年 7 月 31 日(金) 14 時 00 分～16 時 10 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: The Ripples in the Growth of Swimmers

第 1 報告者: 山根承子(近畿大学経済学部准教授)

第 2 報告題目: 被災地における高齢者の健康と選好- Convex Time Budget(CTB)法による経済実験の結果から-

第 2 報告者: 芦田登代(東京大学大学院医学系研究科特任研究員)

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 6 回)

日時: 平成 27 年 12 月 11 日(金) 13 時 00 分～18 時 00 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: Equity versus Equality: Experimental Analysis of Justice Rules

第 1 報告者: James Konow (Chair of Economics and Ethics, Kiel University, German, and Professor of Economics, Loyola Marymount University, USA)

第 2 報告題目: How does the effect of pre-play suggestions vary with group size? Experimental evidence from a threshold public-good game

第 2 報告者: Nick Feltovich (Professor, Department of Economics, Monash University, Australia)

第 3 報告題目: How to Promote Crowd Funding for R&D in New Sources of Energy -Evidence from Online Field Experiment-

第 3 報告者: 川村哲也(関西大学経済実験センターPD)

第 4 報告題目: The Effect of Age, Gender, and Earned Income in the Trust Game: A Laboratory Experiment in Japan

第 4 報告者: 森知晴(関西大学経済実験センターPD)

<ランチミーティング>

・ランチミーティング(第 1 回)

日時: 平成 27 年 7 月 1 日(水) 12 時 20 分～13 時 20 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

概要: 分析中の研究、研究アイデア、研究構想などを題材にした昼食時のミーティングを定期的実施し、研究者間の情報共有、共同研究のマッチングを図る。第 1 回ランチミーティングでは、川村(PD)が京都大学の依田教授、経済実験センター長の小川准教授との共同研究で行っている次世代発電への募金に関するオンラインフィールド実験について報告する。

・ランチミーティング(第 2 回)

日時: 平成 27 年 9 月 18 日(金) 12 時 20 分～13 時 20 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

概要: 分析中の研究、研究アイデア、研究構想などを題材にした昼食時のミーティングを定期的

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

に実施し、研究者間の情報共有、共同研究のマッチングを図る。第2回ランチミーティングでは、森(PD)の過去に実施した間接税と直接税の税の公平性に関するラボ実験について、その実験デザインと実験結果について意見交換を行った。また、長久教授のACIT選考に関する具体例について、参加者間で意見交換を行った。

・ランチミーティング(第3回)

日時:平成27年12月14日(金)12時20分~13時20分

場所:関西大学新関西大学会館南棟4階レストランルコロ

概要:平成28年度に実施予定の奈良県生駒市における特定健康診断に関するフィールド実験の実験デザインについて打ち合わせを行った。特定健康診断において、積極介入が必要とされる市民と、動機付け介入が必要とされる市民、それぞれに対して、受診率と修了率の向上をもたらす動機付けの方法について意見交換を行った。

[平成28年度]

<CEE International Conference>

・RISS 14th International Conference & CEE 2nd International Conference(1日目)

テーマ:Frontier Researches in Neuroscience and Network Studies: Messages for Future Researches in Social Science and Economic Policy Studies

日時:平成29年3月14日(火)13時00分~16時30分

場所:関西大学尚文館7階特別会議室

第1報告題目:How Experience Changes the Brain

第1報告者:Alison Barth (Professor, Biological Sciences, Carnegie Mellon University, USA)

第2報告題目:Do Computer Network Systems Dream of Biological Systems?

第2報告者:Junichi Suzuki (Associate Professor of Computer Science, University of Massachusetts, Boston, USA)

・RISS 14th International Conference & CEE 2nd International Conference(2日目)

テーマ:Symposium on Neuroscience and Molecular Communication

日時:平成29年3月14日(火)13時00分~16時40分

場所:関西大学尚文館7階特別会議室

第1報告題目:Neural Networks for Sensation and Memory

第1報告者:Alison Barth (Professor, Biological Sciences, Carnegie Mellon University, USA)

第2報告題目:Molecular Communication: An Emerging Bio-inspired Communication Paradigm

第2報告者:Junichi Suzuki (Associate Professor of Computer Science, University of Massachusetts, Boston, USA)

<CEE and RISS Seminar Series>

URL:<http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics(第7回)

日時:平成28年7月28日(木)14時00分~16時10分

場所:関西大学 RISS6階マルチメディア・ラボ

第1報告題目:Voluntary disclosure does not promote the trust between investor and manager: An experimental study

第1報告者:田口聡志(同志社大学商学部教授)

第2報告題目:Playing Lowest Unique Integer Games

第2報告者:山田隆志(山口大学国際総合科学部准教授)

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics(第8回)

日時:平成28年10月18日(火)16時30分~17時30分

場所:関西大学 RISS6階マルチメディア・ラボ

報告題目:Hedging and the Competitive Firm under Ambiguous Price and Background Risk

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

報告者: Kit K.P. Wong (Director and Professor, School of Economics and Finance, University of Hong Kong, China)

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第9回)

日時: 平成28年12月19日(月)13時00分～18時00分

場所: 関西大学 RISS6階マルチメディア・ラボ

第1報告題目: Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games

第1報告者: 川村哲也(関西大学経済実験センターPD)

第2報告題目: On the Roots of the Intrinsic Value of Decision Rights: Evidence from France and Japan

第2報告者: 花木伸行 (Professor, University of Nice, Sophia-Antipolis, France)

第3報告題目: Reconsidering whether women are less selfish than men: group gender composition matters in dictator games

第3報告者: 竹本亨(帝塚山大学経済学部教授)

・東大神経生化学セミナー/ 関西大学 RISS・CEE 共催セミナー

日時: 平成29年3月17日(金)12時00分～13時00分

場所: 医学部教育研究棟 13階 第8セミナー室(Room1305)

報告題目: High-throughput, quantitative analysis of synaptic distributions in the neocortex

報告者: Alison Barth (Professor, Department of Biological Sciences, and Director, BrainHub, Carnegie Mellon University, USA)

<公開講座>

・市民公開講座 第13回ひと・健康・未来シンポジウム2016 浜松 ひと・健康・未来研究財団

日時: 平成28年12月3日(土)13時00分～16時30分

場所: アクティシティ浜松 コンgressセンター4F 41会議室

報告題目: 高齢者・流動的知性・経済的意思決定

報告者: 小川一仁(関西大学社会学部教授/CEEセンター長)

・西川町里山社会・文化研究所主催事業 関西大学による経済行動調査に関する中間成果発表会

日時: 平成29年3月9日 16時00分～17時30分

場所: 西川交流センターあいべ 4F 会議室

報告題目: 関西大学による経済行動調査成果中間報告

報告者: 小川一仁(関西大学社会学部教授/CEEセンター長)

[平成29年度]

・第21回実験社会科学カンファレンス

URL: <https://sites.google.com/view/expss2017kansai-u/>

日時: 平成29年10月21日(土)9時30分～17時55分

10月22日(日)9時30分～17時40分

場所: 関西大学第3学舎(社会学部棟)

共催: 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構・経済実験センター

10月21日(基調講演のみ抜粋)

基調講演「経済学とRCTでアジアの環境問題に取り組む: 実践的・倫理的課題へのアプローチ」

講演者: 横尾英史(国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター研究員)

10月22日(基調講演のみ抜粋)

基調講演「不合理な意思決定: 観察、実験、調査、シミュレーションによる考察」

講演者: 竹村和久(早稲田大学文学学術院教授)

<CEE and RISS Seminar Series>

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

URL: <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 10 回)

日時:平成 29 年 7 月 15 日(土)16 時 00 分～17 時 30 分  
7 月 16 日(日)10 時 00 分～11 時 00 分

場所:関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: The Higher (Lower) The Cognitive Ability, The More Generous The Elderly (Young): Evidence from Dictator Game Experiments

第 2 報告題目: Playing Lowest Unique Integer Games

第 1、2 報告者: 川村哲也(関西大学経済実験センターPD)

第 3 報告題目: Identity and Impact on Public Goods Contributions: A Field Experiment on Wikipedia

第 3 報告者: Yan Chen (Professor, University of Michigan, USA)

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 11 回)

日時:平成 30 年 1 月 15 日(月)15 時 00 分～17 時 20 分

場所:関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: An impact of others' other-regarding preferences in dictator games

第 1 報告者: 竹本亨(帝塚山大学経済学部教授)

第 2 報告題目: Which determines "Dictating the Risk", risk preference or social image? — Experimental evidence —

第 2 報告者: 尾崎祐介(大阪産業大学経済学部准教授/CEE 研究員)

<公開講座>

・市民公開講座 第 15 回ひと・健康・未来シンポジウム 2017 広島 ひと・健康・未来研究財団

日時:平成 29 年 7 月 15 日(土)13 時 00 分～16 時 30 分

場所:ホテル広島サンプラザ 3F「金銀星」

報告題目: 高齢者・流動的知性・経済的意思決定

報告者: 小川一仁(関西大学社会学部教授/CEE センター長)

・「経済行動調査」研究成果報告会

日時:平成 29 年 7 月 29 日(土)11 時 00 分～16 時 00 分

場所:関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8 階大ホール

第 1 報告題目: 高齢者は他人に優しい? — 寄付実験から見える考察 —

第 1 報告者: 小川一仁(関西大学社会学部教授/CEE センター長)

第 2 報告題目: 高齢者は平等主義者? — 分配実験から見える考察 —

第 2 報告者: 川村哲也(関西大学経済実験センターPD)

[平成 30 年度]

<CEE and RISS Seminar Series>

URL: <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 12 回)

日時:平成 30 年 7 月 5 日(木)14 時 00 分～15 時 30 分

場所:関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

報告題目: Tree construction and backward induction: a mobile experiment

報告者: Alex R. Horenstein (Assistant Professor, Department of Economics, University of Miami, USA)

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 13 回)

日時:平成 30 年 7 月 9 日(月)14 時 30 分～17 時 00 分

場所:関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: スマートフォンゲームユーザーの課金行動に関する調査

第 1 報告者: 小山友介(芝浦工業大学環境システム学科教授)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

第 2 報告題目: Higher order risk attitudes and prevention under different timings of loss」 joint with Eungik Lee

第 2 報告者: 舛田武仁(大阪大学社会経済研究所講師)

- ・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 14 回)

日時: 平成 31 年 1 月 17 日(木) 15 時 00 分～17 時 20 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: ミニマムゲームにおける連続時間チーフトークの効果

第 1 報告者: 禿寿(大阪府立大学大学院経済学研究科博士課程)

第 2 報告題目: 太平洋戦争開戦時の日本指導部の意思決定

第 2 報告者: 牧野邦昭(摂南大学経済学部准教授)

- ・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 15 回)

日時: 平成 31 年 3 月 11 日(月) 15 時 00 分～17 時 10 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: Reference Dependence and Monetary Incentive –Evidence from Major League Baseball–

第 1 報告者: 丹治伶峰(大阪大学経済学研究科修士課程)

第 2 報告題目: Higher cognitive ability promotes cooperation in infinitely repeated prisoner's dilemma games and deviation in finitely repeated games: Experimental evidence

第 2 報告者: 川村哲也(日本経済大学経営学部専任講師)

#### < RISS-CEE Workshop >

- ・マッチング理論の現在とその社会実装に向けて

日時: 平成 30 年 11 月 11 日(日) 9 時 30 分～17 時 00 分

場所: 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

Session1: “Should matching markets be centralized or decentralized, or else?” (co-authored with Taro Kumano and Morimitsu Kurino)

報告者: 丸谷恭平(京都大学)

“Strategy-proofness and efficiency in assignment problem with discrete payments” (co-authored with Shigehiro Serizawa)

報告者: 酒井良祐(大阪大学)

Session2: “Integrating School Districts: Balance, Diversity, and Welfare” (co-authored with Fuhito Kojima and Bumin Yenmez)

報告者: Isa Hafalir (University of Technology Sydney)

“Existence of a Stable Outcome under Observable Substitutability across Doctors in Many-to-Many Matching with Contracts” (co-authored with Toshiyuki Hirai)

報告者: 坂東桂介(信州大学)

Session3: “Singles Monotonicity and Stability in One-to-One Matching Problems” (co-authored with Yoichi Kasajima)

報告者: 戸田学(早稲田大学)

“Testable implications of fair allocations”

報告者: 我妻靖(首都大学東京)

Session4: “Spurious Strategy-Proofness: Peer Effects and Counterfactuals in Market Design”

報告者: 糟谷祐介(神戸大学)

“Double Implementation in dominant Strategy Equilibria and Ex Post Equilibria with Private Values”

報告者: 萩原誠(東京工業大学)

- ・金融・通信市場の消費者行動

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

日時:平成 31 年 2 月 28 日(木)13 時 00 分~17 時 45 分

場所:関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

第 1 報告題目: Is Financial Literacy a Dangerous Thing?: Financial Literacy, Behavioral Factors, and Financial Choices of Consumers (coauthored with Tetsuya Kawamura, Tomoharu Mori, Kazuhito Ogawa)

第 1 報告者: 本西泰三(関西大学経済学部教授)

第 2 報告題目: 投資信託の資金フローと個人投資家活動 (高橋陽二氏との共著)

第 2 報告者: 阿萬弘行(関西学院大学商学部教授)

第 3 報告題目: TBA

第 3 報告者: 黒田敏史(東京経済大学経済学部准教授)

第 4 報告題目: 広告は過剰なのか、過小なのか? — 広告への抵抗感が広告量に与える影響に関する分析 — (中村彰宏氏・春日教測氏との共著)

第 4 報告者: 宍倉学(長崎大学経済学部教授)

#### <公開講座>

URL: <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

日時:平成 30 年 8 月 4 日(土)11 時 00 分~15 時 30 分

場所: 関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8 階 大ホール

第 1 報告題目: 誰が他人とどのように協力するのか?

第 1 報告者: 小川一仁(関西大学社会学部教授/CEE センター長)

第 2 報告題目: 詐欺的・ポッタクリ金融商品から身を守るには?

第 2 報告者: 本西泰三(関西大学経済学部教授/CEE 研究員/RISS 機構長)

#### <その他>

本センターの Web サイト<<http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/experimentop/>>にこれまでの経済実験実施データが記載されている。データ収集中のものもあるため、実験の内容については記載していない。

## 14 その他の研究成果等

Discussion paper, Working Paper

D-1 舟場拓司、「大学教育規模の拡大と授業料の上昇に関して」、関西大学社会学部紀要、第 50 巻第 1 号、pp.49-59、平成 30 年。

D-2 Ryo-Ichi Nagahisa & Koichi Suga, “Arrovian Social Choice with Non -Welfare Attributes”, ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ, 第 64 号, 平成 30 年 9 月。

D-3 鈴木明宏、高橋広雅、竹本亨、「金融教育と行動バイアスが金融行動と金融トラブルへの巻き込まれやすさに与える影響: 金融リテラシー調査データを利用した分析」、山形大学紀要(社会科学)、第 49 巻第 1 号、平成 30 年 7 月。

\* D-4 Tetsuya Kawamura & Kazuhito Ogawa, “The effect of cognitive ability and ageing on sender behavior in dictator and ultimatum game experiments”, ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ, 第 63 号, 平成 30 年 6 月。

D-5 Kazuhito Ogawa, Tetsuya Kawamura, Keiichiro Matsushita, “A manufacturer’s incentive to open its direct channel and its impact on welfare”, ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ, 第 60 号, 平成 30 年 5 月。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

\* D-6 Kazuhiro Ogawa, Tetsuya Kawamura, Keiichiro Matsushita, “The Higher the Cognitive ability of, and/or the Younger, the Dictator, the More the Self-interestedness: Experimental Evidence”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 59 号, 平成 30 年 5 月.

D-7 Hiromasa Takahashi, Junyi Shen, “The Effect of Anchoring on Dishonest Behavior”, *Discussion Paper Series RIEB Kobe University*, DP2018-04, 平成 30 年 2 月.

D-8 Yanchun Jin, Ryo Okui, “Testing for Overconfidence Statistically: A Moment Inequality Approach”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 55 号, 平成 30 年 1 月.

D-9 Riko Noguchi, Junyi Shen, “Factors Affecting Participation in Health Checkups: Evidence from Japanese Survey Data”, *Discussion Paper Series RIEB Kobe University*, DP2018-01, 平成 30 年 1 月.

D-10 Ryo Okui, Takahide Yanagi, “Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics”, 平成 30 年.

D-11 Andreas Dzemski, Ryo Okui, “Confidence Set for Group Membership”, 平成 30 年.

D-12 Ryo Okui, Takahide Yanagi, “Kernel Estimation for Panel Data with Heterogeneous Dynamics”, 平成 30 年.

D-13 Ryo Okui, Wendun Wang, “Heterogeneous Structural Breaks in Panel Data Models”, 平成 30 年.

D-14 Qinxin Guo, Enci Wang and Yongyou Nie, Junyi Shen, “Profit or Environment? A System Dynamic Model Analysis of Waste Electrical and Electronic Equipment Management System in China”, *Discussion Paper Series RIEB Kobe University*, DP2017-30, 平成 29 年 11 月.

D-15 Junyi Shen, Takako Nakashima, Izumi Karasawa, Tatsuro Furui, Kenichiro Morishige and Tatsuyoshi Saijo, “Examining Japanese Women’s Preferences for a New Style of Postnatal Care Facility and Its Attributes”, *Discussion Paper Series RIEB Kobe University*, DP2017-23, 平成 29 年 9 月.

D-16 Yongyou Nie, Enci Wang and Qinxin Guo, Junyi Shen, “Examining Shanghai Consumer Preferences for Electric Vehicles and Their Attributes”, *Discussion Paper Series RIEB Kobe University*, DP2017-21, 平成 29 年 9 月.

D-17 Toyoyuki Kamo, Ryo-Ichi Nagahisa, “Acyclic Rational Choice with Indifference Transitivity”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 48 号, 平成 29 年 7 月.

D-18 Taizo Motonishi, “The Effects of the Great East Japan Earthquake on Investors’ Risk and Time Preferences”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 46 号, 平成 29 年 6 月.

D-19 舟場拓司, 「労働分配率に関する予備的分析」、*関西大学社会学部紀要*, 第 48 巻第 2 号, pp.81-89, 平成 29 年 3 月.

D-20 Kazuya Kamiya, Hajime Kobayashi, Tatsuhiko Shichijo, Takashi Shimizu, “Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach”, *Discussion paper series RIEB Kobe University*, DP2017-03, 平成 29 年 3 月.

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

D-21 鈴木明宏、伊藤健宏、小川一仁、高橋広雅、竹本亨、「追加実験における意思決定に先行実験が与える影響：一方的最後通牒ゲーム実験による分析」、*山形大学紀要(社会科学)*、第46巻第2号、pp.39-44、平成28年2月。

\* D-22 Tetsuya Kawamura, Kazuhito Ogawa, “Cognitive ability and human behavior in experimental ultimatum games”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第41号, 平成28年4月。

D-23 森知晴、小川一仁、「信頼ゲームにおける年齢・性別・所得獲得方法の影響」、*ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*、第40号、平成28年4月。

D-24 本西泰三、「「意思決定に関する調査 3」マイナス金利関連の調査結果概要」、*ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*、第39号、平成28年4月。

D-25 Weiyi Zhang and Hiromasa Takahashi, Junyi Shen, “Does Physical Exercise Affect Tradeoffs between Fixed Pay and Performance-related Pay for Individuals?”, *Discussion Paper Series RIEB Kobe University*, DP2016-13, 平成28年3月。

D-26 Ping Gao, Junyi Shen, “An Empirical Analysis on the Determinants of Overweight and Obesity in China”, *Discussion Paper Series RIEB Kobe University*, DP2016-12, 平成28年3月。

D-27 Hiromasa Takahashi, Junyi Shen, Kazuhito Ogawa, “Gender-specific Reference-dependent Preferences in an Experimental Trust Game”, *Discussion Paper Series RIEB Kobe University*, DP2016-09, 平成28年3月。

D-28 Hajime Kobayashi, Tatsuhiko Shichijo, Shigeki kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, Takafumi Yamakawa, “Experiments on Repeated Games with Infrequent monitoring”, *Working Paper Series, Kansai University*, F-77, 平成28年。

D-29 Tatsuhiko Shichijo, Emiko Fukuda, “Equal cost sharing for the good with network externalities”, *Discussion Paper New Series, School of Economics, Osaka Prefecture University*, 2016 (5), p.1-7, 平成28年。

D-30 鈴木明宏、高橋広雅、竹本亨、西平直史、小川一仁、「Easy Economic Experiment Systemを用いた経済実験の教育効果：囚人のジレンマと協調ゲーム」、*山形大学紀要(社会科学)*、第46巻第1号、pp.1-29、平成27年7月。

D-31 Junyi Shen, Hiromasa Takahashi, “The Tangibility Effect of Paper Money and Coins in an Investment Experiment”, *Discussion paper series RIEB Kobe University*, DP2015-41, 平成27年11月。

D-32 Tatsuyoshi Saijo, Junyi Shen, “Mate Choice Mechanism for Solving a Quasi-Dilemma”, *Discussion paper series RIEB Kobe University*, DP2015-34, 平成27年7月。

D-33 西村教子、松下敬一郎、村上雅俊、「資産選択に関わる相対的危険回避度、時間割引率と認知能力—意思決定に関する意識調査(2014年)—」、*ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*、第37号、平成27年3月。

D-34 Junyi Shen, Ken-Ichi Shimomura, Takehiko Yamato, Tokinao Ohtaka, and Kiyotaka Takahashi, “Revisiting Marshallian versus Walrasian Stability in an Experimental Market”, *Discussion Paper*

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

*Series RIEB Kobe University*, DP2015-30, 平成 27 年 7 月(平成 28 年 5 月改訂版).

D-35 Kai Duttler, Tatsuhiko Shichijo, “Default or Reactance? Identity Priming Effects on Overconfidence in Germany and Japan”, *Working Papers on East Asian Studies*, 103/2015, University of Duisburg-Essen, Institute of East Asian Studies IN-EAST, 平成 27 年.

D-36 Tatsuhiko Shichijo, Takao kusakawa, Takehito Masuda, Emiko Fukuda, Tatsuyoshi SAIJO, “A deposit-refund scheme for the diffusion of goods with network externalities”, *working paper*, 平成 27 年.

D-37 Tatsuhiko Shichijo, Emiko Fukuda, “Equal cost sharing for the good with network externalities”, *working paper*, 平成 27 年.

D-38 Junyi Shen, Xiangdong Qin, Ken-Ichi Shimomura and Takehiko Yamato, ”Hometown-Specific Bargaining Power in an Experimental Market in China”, *Discussion Paper Series RIEB Kobe University*, DP2013-28, 平成 25 年 10 月(平成 28 年 1 月改訂版).

以下、本プロジェクト研究員以外で、実験室を利用した研究者の成果を記載する。

D-39 Satoshi Takahashi, Yoichi Izunaga, Naoki Watanabe, “VCG Mechanism for Multi-unit Auctions and Appearance of Information: An Experiment”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 68 号, 平成 31 年 1 月.

D-40 Katsuhiko Nishizaki, “Strategy-Proof Mechanism Design with Boundedly Rational Agents”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 65 号, 平成 30 年 10 月.

D-41 Naoki Watanabe, “Supplementary Results for “Meaningful Learning in Weighted Voting Games: An Experiment””, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 62 号, 平成 30 年 6 月.

D-42 Toshiyuki Hirai, Naoki Watanabe, Shigeo Muto, “Farsighted Stability in a Patent Licensing Game: An Abstract Game Approach”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 61 号, 平成 30 年 6 月.

D-43 Katsuhiko Nishizaki, “Secure Implementability under Pareto-Efficient Rules in Linear Production Economies with Classical Preferences”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 56 号, 平成 30 年 1 月.

D-44 Satoshi Takahashi, Yoichi Izunaga, Naoki Watanabe, “An Approximation Algorithm for Multi-unit Auctions: Numerical and Subject Experiments”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 50 号, 平成 29 年 11 月.

D-45 Katsuhiko Nishizaki, “Securely Implementable Social Choice Functions in Divisible and Non-Excludable Public Good Economies with Quasi-Linear Utility Functions”, *ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ*, 第 38 号, 平成 28 年 3 月.

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

特になし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

特になし

<「中間評価時」に付された留意事項>

特になし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

特になし

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

学 校 法 人 名	学校法人 関西大学	大 学 名	関西大学
研 究 プロジェクト名	高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成		

平成 26 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

## 研究成果報告書概要

# 別紙資料

- 資料 1 内部評価資料（平成 27 年、平成 30 年）
- 資料 2 外部評価資料（平成 28 年、平成 30 年）
- 資料 3 学外実験（山形県西川町）新聞記事
- 資料 4 公開講座案内（平成 28 年～平成 30 年）

## 研究プロジェクトの進展状況チェックシート

(評価者)

プロジェクト名: 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成	
研究期間: 平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	研究代表者(評価責任者): 小川 一仁
評価対象期間: 平成 26 年 4 月 ~ 平成 27 年 9 月	評価日: 平成 27 年 9 月 24 日

上記の評価対象期間における本研究プロジェクトの研究進捗状況等は、以下のとおりである。

## 1. 研究組織について

## ① 研究プロジェクトを効率的・効果的に遂行するための責任ある研究体制となっているか。

■はい 【状況について:

本研究プロジェクトは、プロジェクトの採択と同時に制定された「関西大学経済実験センター運営内規」に基づき運営されている。当内規で、プロジェクトリーダーとプロジェクトメンバーとで構成される「経済実験センター推進委員会(以下「推進委員会」という。)」を議決機関として設置した。この推進委員会において、プロジェクトの事業、人事、予算執行等についての決定を行い、研究活動を実行する体制を取っている。また、経済実験室(ラボラトリ室)の設置に伴い、実験室利用規約を制定し、学内、学外の実験室利用(経済行動実験実施)に対する審査(倫理上の審査を含む)を行い、経済行動実験を実行する体制を取っている。】

□いいえ 【理由と対応策】

## ② 研究者間・研究チーム間の調整・連携はとられているか。

■はい 【状況について:

本研究プロジェクトは、研究チーム 4 班に分け、研究を推進している。A01 班(リーダー小川一仁)は、実験ラボの管理・運営を行い、学外者の実験実施要請に応える体制を取る。A02 班(リーダー松下敬一郎)は、高齢者個人の経済的意思決定を分析し、個人属性に関するアンケートを収集、A01 班と協力してデータベース化する。A03 班(リーダー小林創)は、他者との相互作用が存在する場合の高齢者の意思決定を分析し、A02 班のデータを援用しつつ、高齢者の行動のタイプ分けを行う。A04 班(リーダー村田忠彦)は、A02 班、A03 班が得たデータを基にエージェントをモデル化し、大規模計算機実験から政策実施前後の社会厚生の変化を分析する。プロジェクトは、平成 26 年 9 月に事業開始、平成 27 年 2 月から社会人向けの経済実験を開始した。実験回数を重ねるなかで、A01 班、A02 班、A03 班の研究連携を強めている。A04 班との連携は、27 年度は、A02 班、A03 班のデータ集約、データ分析の整理と同時進行で行うこととしているが、本格的な始動は、27 年度末からとなる。

プロジェクトメンバー間で、定期的に研究会(CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics)を開催し、メンバー間での研究情報交換と学外研究者との研究交流を図っている。また、随時、プロジェクトメンバー間でランチミーティングを実施、研究情報の交換、新規分野への研究推進に繋げている。】

□いいえ 【理由と対応策】

## ③ 研究支援体制は整っているか。

■はい 【状況について:

本研究プロジェクトへの研究支援体制は、母体となるソシオネットワーク戦略研究機構(以下「RISS」という。)の事務組織、ソシオネットワーク事務グループにより行われている。ソシオネットワーク事務グループは、専任事務職 2 名、研究支援スタッフ 4 名、定時事務職員 2 名が配置されており、本プロジェクトには、専任事務職 2 名(兼務)、専任研究支援スタッフ 1 名、専任定時職 1 名の

支援体制が取られており、この人員で、プロジェクトメンバーへの諸連絡、推進委員会事項、予算執行管理、プロジェクト広報(ホームページ作成)等の諸業務及び経済実験実施事項(参加者の募集、連絡、実験時の対応、報酬支払等)の諸業務に対応し、研究活動、実験実施の支援を行っている。

いいえ【理由と対応策】

④大学院学生・PD等を活用し、若手研究者の育成を行っているか。

■はい【状況について】

プロジェクト事業開始と同時に(昨年10月)にPD1名を採用、本年4月に1名を採用し、計2名のPDで研究活動を実施している。

実験実施日程、国内外への研究出張等について、PDに配慮した研究実施体制を敷き、PD育成をフォローアップしている。それぞれのPDは、自己の研究テーマに即した経済実験を実施し、現在、実験データを収集している。今後、収集データの分析を行い、研究論文作成に繋げる。また、定期的に若手研究者を中心とした研究会(GEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics)を開催、PD、プロジェクトメンバー、学外研究者の研究推進の場を提供している。また、本年2月国際ワークショップ(CEE Workshop)では、海外研究者との研究討議で、新たな知識の獲得を図り、共同研究へ繋げる方策を取っている。また、随時、PDを中心とした、プロジェクトメンバー間でのランチミーティングを実施、率直な意見交換を行い、研究活動の活性化を図っている。

いいえ【理由と対応策】

⑤共同研究機関等との連携はとられているか。

■はい【状況について】

2015年3月のワークショップ(CEE Workshop)では、筑波大学、立命館大学の経済実験研究者との研究セミナーで、研究者間の連携を深めた。2015年7月に、本プロジェクトの母体のソシオネットワーク戦略研究機構「RISS」と共に、京都大学と国際会議(実験経済学国際ジョイントワークショップ)を開催、海外研究者との研究討議を行った。また、台湾政治大学のグループとは定期的に連絡を取っており、(2015年2月、6月に小川プロジェクトリーダーが台湾を訪問)、将来的な共同研究を模索している。まだ具体的な「形」にはなっていないが京都大学、高知工科大学と実験参加者のデータを融通し合い、日本発の国際的な実験経済学拠点にする構想も存在している。

いいえ【理由と対応策】

## 2.研究施設・設備等の利用について

①研究施設の整備、プロジェクトに適合した装置設備の整備、装置・設備の利用はなされているか。

■はい【状況について】

研究プロジェクトの研究施設は、母体となる「RISS」建物5F以下の研究・実験スペースが確保されている。

経済実験室 120.0 m<sup>2</sup> 経済実験室準備室 39.6 m<sup>2</sup> 経済実験センター研究室(2部屋) 19.8 m<sup>2</sup> 計 179.4 m<sup>2</sup>

この経済実験室において、社会人(高齢者)、学生参加者による「経済実験」を実施している。実験室の設備として、PCブース28席、OHP、プリンタ、メイン操作用PCを配置し、メイン操作用PCには、実験データ管理プログラムとして、「経済実験ラボラトリ管理システム」が装填されている。また、遠隔地での経済実験用のタブレット端末PC30台が装備されている。

※経済実験室では、2014年度後半以降、学生は延べ999人、社会人延べ173人参加している。また稼働状況は、1ヵ月あたり、7.6セッションである。以上の稼働状況は他大学の同等設備と比較して、高頻度の利用である。

いいえ【理由と対応策】

**3.研究計画の進捗(達成)状況、これまでの研究成果等について**

①構想調書提出時(中間評価を終えた拠点では進捗状況報告書提出時)の計画と対比して、研究は進展しているか(達成度)

■はい 【状況について:

対比実験として実施している大学生向けの実験、開放型研究拠点の形成については、当初よりも研究状況は進展している。社会人向けの経済実験については、当初の予定から進捗が遅れている。これについては、以下の②、③に記載する。】

□いいえ 【理由と対応策】

②当初計画と差異が生じているか。

□生じていない

■生じている【理由と対応策:

社会人向けの経済実験参加者の獲得に苦心している。これまで、大学の社会人公開講座、スプリングフェスティバル、校友会総会等の催しで、参加者を募ってきたが、27年9月実施分からは、近郊住民に対し、ポスティングや吹田市市報への掲載(社会連携部の協力を得て)を行い、参加者獲得に注力する。また、28年度より実施予定の学外(遠隔地)での経済実験については、山形県西川町、鳥取県八頭町での実施に向け、松下教授、本西教授(共にプロジェクトメンバー)を中心に現地との交渉を進めている。】

③克服すべき問題点は生じているか。

□生じていない

■生じている【理由と対応策:

意思決定サポートをするシステムの設計には、より多くのデータとその分析が必要である。さらにモデル構築ためには、より幅広い年齢層(男女)の実験データが必要となり、実験参加者の確保が急務となっている。これまで、チラシ配布等のペーパーによる募集を中心に行ってきたが、より多数者へ周知を図るため、大学及びプロジェクトのホームページ、フェイスブック等のネットワークを利用して、積極的な募集を行う。】

④今後の研究方針(最終年度の場合は、期間終了後の展望)は確立しているか。

■はい 【方策について:

近年、研究調査手法として注目されている「フィールド実験(現地調査)」の実施により、様々な政策(特に社会人の健康政策)について、政策提言を行いたい。プロジェクトメンバーの本西教授が研究代表者として申請している「平成28年度研究拠点形成支援経費(学内研究費)」でのフィールド実験(現地調査)への協力も当研究施策の一環である。】

□いいえ【理由と対応策】

⑤構想調書に記載したメンバー全員の研究成果は公開されているか。

■はい【状況について:

プロジェクトのホームページ(HP)に研究成果を記載し、外部研究機関、外部研究者へ公開している。現時点において、研究成果に記載のないプロジェクトメンバーについても、本年(27年度)の経済実験結果に関する分析を進めてもらい、文部科学省提出時(3年目)は、メンバー全員の研究成果を記載することとする。】

□いいえ【理由と対応策】

#### 4.評価体制について

##### ①自己評価は実施しているか。

はい【状況について】

■いいえ【理由と対応策：平成26年度(1年目)は採択時期が6月末、事業開始が9月で、実験室設置が重点事項であり、研究実績がまだ出ていないので、自己評価は見送った。平成27年度以降、実施する。】

##### ②外部評価は実施しているか。

はい【状況について】

■いいえ【理由と対応策：①と同じ理由で、実施を見送った。本プロジェクトの外部評価は、プロジェクトの事業開始にあたり、京都大学教授 依田高典先生、一橋大学教授 竹内幹先生、筑波大学教授 秋山英三先生の3名に外部評価委員の依頼を行い、承諾を得た。26年度は、上記①の理由で、外部評価は実施しなかったが、「平成26年度事業進捗状況報告書」を作成し、外部評価委員の方(3名)に送付した。また、同「事業進捗状況報告書」を、プロジェクトメンバー全員にも送付し、事業進捗状況について、周知した。】

※ 参考 別添「平成26年度事業進捗状況報告書」

##### ③評価結果を反映しているか。

はい【状況について】

■いいえ【理由と対応策：2年目以降、評価を受けることにしているので、評価事項を事業に反映させることとする。】

#### 5.外部の研究資金の導入状況について ※別添の外部資金獲得一覧をご参考としてください。

##### ①当該プロジェクトに関連する受託研究等、指定寄付、科研費等について獲得しているか。

■はい【状況について：指定寄附金、科研費の獲得内容】

指定寄附金 25年度 プロジェクトリーダー 小川一仁 (株)ベイオーク 中古自動車流通におけるオークションの方向性を示す研究

科学研究費 26年度 プロジェクトリーダー 小川一仁 (若手B) 経済実験による目標管理制度設計と評価

科学研究費 26年度 プロジェクトメンバー 小林 創 (基盤C) 金融市場における情報開示頻度と企業合併の影響に関する理論

科学研究費 26年度 プロジェクトメンバー 村田忠彦(基盤C) 社会シミュレーションのための統計データからのエージェント生成に関する研究

科学研究費 27年度 プロジェクトメンバー 座主祥伸(若手B) 担保法制の違いが起業家行動に与える影響に関する研究

科学研究費 27年度 プロジェクトメンバー 村田忠彦(基盤C) 社会シミュレーションのための統計データからのエージェント生成に関する研究

科学研究費 27年度 PD 森 知晴(若手B) 参照点依存型効用関数による女性の労働供給行動の分析・シミュレーション

平成28年度に向け、科学研究費や新たな外部資金(厚労省、総務省等の高齢者政策に対する提言プロジェクト)への申請を行うべく、プロジェクトメンバーに示唆している。】

いいえ【理由と対応策】

#### 6.留意事項への対応について

##### ①採択時の意見または留意事項への対応について

該当なし

##### ②中間評価時の留意事項について(中間評価を終えた拠点のみ)

**7.特記事項**

研究者の変更が生じた場合はその旨を記入

【

】

※用紙が足りない場合は適宜複写してください。

## 外部資金審査・評価部会からの意見等

平成 27 年 12 月 25 日

研究代表者

ソシオネットワーク戦略研究機構

社会学部

小川 一仁 准教授

研究推進委員会 外部資金審査・評価部会長

吉田 栄司

研究代表者の先生におかれましては、ご多用中、種々ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

貴プロジェクトにおかれましては、平成 28 年度に中間評価を迎えることとなりますので、学内における研究プロジェクト支援（進捗管理）の一環として「進捗状況チェックシート」及び「研究成果の概要」をご提出いただきました。

外部資金審査・評価部会において、研究の進捗状況について検討させていただきました結果、各委員から以下のようなご意見を頂きましたので、ご報告申し上げます。

来年度の文部科学省への報告書作成に際して、これらの意見をもとに、ご対応いただければ幸いです。

## 記

項目	コメント
1. 研究組織 について	<p>本研究プロジェクトの責任体制は、センター運営内規の制定とそれに基づくセンター推進委員会の設置以降しっかりと生まれ、経済実験を含めて順調に研究プロジェクトの運営がなされていることが伺える。研究チームも 4 班が有機的に連携して定期的な研究交流も実現しているかと思われる。大学院学生等若手の育成も図られ、他大学との連携も活発である。なお、年号表記として、冒頭記載の期間と評価日および②では平成が用いられているが、④では昨年および本年（2カ所）が用いられ、⑤では西暦が用いられているので、統一が求められよう。</p> <p>研究組織に関するスタート以前の計画が綿密であったためか、研究者間および研究チーム間の役割分担が明確でありかつ連携がうまく取れている。また事務組織および院生 PD からなる若手研究者ともうまく接合し、全体として研究を遂行するための組織として効果的効率的な組織運営がなされていると評価される。さらに、他大学の実験経済学の研究者や研究機関と積極的に連携をはかり、ワークショップを共同開催するなど、プロジェクトの初期段階から実績を積んでいる。</p>

## 外部資金審査・評価部会からの意見等

2. 研究施設・設備等について	<p>施設および設備については十分に確保されていると見受けられ、それらの稼働状況も良好かと思われる。</p> <p>研究プロジェクト推進に適した施設と装置・設備配置がなされ、それらの利用が効率よくなされている。</p>
3. 研究計画の進捗（達成）状況・これまでの研究成果等について	<p>研究計画は全体的には相応に順調のようではあるが、社会人向けの実験が当初計画よりも遅れているとのことで、それは協力者確保策の不十分性および上記支援体制の脆弱性に起因するのかもしれない。</p> <p>積極的に研究計画の推進を図っているようであるが、（ある程度予測されたことでもあろうが）社会人の参加者確保においてやや困難に直面している。しかし、高齢者の意思決定を明らかにすることがメインテーマであるため、年齢的に幅の広い参加者確保に一層の努力を期待したい。</p> <p>研究期間の前半であるが、すでに公刊された成果があり、さらに次なる研究成果の公表に向けた方向で進展している。</p>
4. 評価体制について	<p>自己評価および外部評価については、原則として年度単位かとも思われるが、事業開始から1年が経過した限りにおいて、半期2回分の相応の自己評価は可能かと思われる。外部評価のための委員委嘱はなされており、その点の準備は整っていると思われるが、年度末には1年半の評価を受け、その結果の反映を期待する。</p> <p>事業開始が平成26年9月ということもあって、外部評価はまだ受けていない。しかし、事業開始時にすでに3名の外部評価委員への協力依頼・承諾を済ませており、それらの委員に対して事業の進捗状況を報告している。外部評価への取り組みは十分なされていると判断される。</p>
5. 外部の研究資金の導入状況について	<p>これまでの外部資金の導入状況は良好かと受け止められる。年度末に向けて次年度の外部資金申請が企図されているようであり、期待される。</p> <p>プロジェクトチームの複数名が科学研究費を中心とする外部資金を獲得しており、導入に積極的であること、また外部からも研究が評価されていることが伺える。</p>
6. 留意事項への対応について	<p>特になし。</p>

## 外部資金審査・評価部会からの意見等

7. 特記事項 について	特になし。
8. 総合所見	<p>全体的にはきわめて良好な研究プロジェクトの進捗が果たされているものと思われる。ただ、当初の計画との関連では、③で示されているように社会人（高齢者）の経済実験データの収集に遅れが出ているとのことであり、その遅れを取り戻す手立てに関する記述がないことが惜しまれる。何らかの手立てを講じないことには、対比経済実験は成果を生み出しにくいように思われる。</p> <p>周到な準備と焦点が絞られた完成度の高い構想をもって事業を開始したため、これまでの経過は順調に推移していると思料される。実験参加者の多様性を高めることは、掲げた目標の実現に不可欠であるため、困難な課題ではあるが様々な工夫と方略を駆使して、是非克服されるよう期待する。</p>

以上

2018年10月1日

「高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成」

研究代表者

ソシオネットワーク戦略研究機構

社会学部・教授・小川 一仁 殿

研究推進委員会 外部資金審査・評価部会長

吉田 宗弘

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に係る最終評価（5年目）の結果について

このたびご提出いただきました研究成果報告書（学内評価用）につきまして、研究推進委員会の専門部会である外部資金・審査評価部会において評価した結果について、下記のとおりご報告申し上げます。

つきましては、評価結果を踏まえ、来年5月末日締切の文部科学省への報告書作成に向けたとりまとめをお願いするとともに、引き続き研究の適切な遂行に努めていただけますと幸いです。

記

**<総合評価点> 4.00**

※総合評価点の凡例

4：優れた成果がみられた 3：成果がみられた 2：やや不十分であった 1：成果があらなかった

&lt;評価における主な意見&gt;

- ・「開放型経済実験拠点の形成」という観点において、申し分のない成果が得られている。特に経済実験センターの稼働状況は特筆すべきものであり、極めて意義深いものと判断する。また、行われた個々の実験等については十分な成果が述べられており、開放型経済実験拠点が有効に活用されたことも読み取れる。
- ・「高齢者の意思決定支援制度の構築」の部分に関して、実験等とおして得られた成果を統合した記述（例えば、高齢者の意思決定支援制度の構築にあたって留意すべき事項を、まとめて記述するなど）があれば、よりわかりやすい報告書になると思う。
- ・経済実験センターの今後の運営に関して、大学の支援体制が明確にできれば追記されたい。
- ・経済実験施設の設置、及びそれによる経済実験の実施と豊富な研究成果によって、重要な研究拠点へと発展している。課題も明確に意識されており、研究期間終了後も、引き続き経済実験室の維持・運営を通じて、さらなる発展が期待できる。

以上

## 外部評価チェックシート（見本）

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成26年度～30年度）

平成 年 月 日

ご氏名：\_\_\_\_\_

研究組織名 関西大学経済実験センター研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所 属 部 局 名	職 名
小川 一仁	社会学部	教授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

## 1. 研究体制について

○ 研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップについて

5（特によい） 4（よい） 3（普通） 2（要改善） 1（特に要改善） 0（評価保留）

コメント（必要に応じてご記入ください）

○ 研究員の活動状況、各メンバーの役割、共同研究の実施について

5（特によい） 4（よい） 3（普通） 2（要改善） 1（特に要改善） 0（評価保留）

コメント（必要に応じてご記入ください）

## 2. 研究施設について

○ 研究を実施する十分な研究施設を備えているか。

3（よい） 2（普通） 1（要改善） 0（評価保留）

コメント（必要に応じてご記入ください）

### 3. 研究成果について

- 申請時の研究計画にそった進捗が認められるか。

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント (必要に応じてご記入ください)

- 研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント (必要に応じてご記入ください)

## 外部評価結果（平成 28 年実施）

研究組織名 関西大学経済実験センター

研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
小川 一仁	社会学部	教授

### ◆外部評価委員

- ・ 秋山英三（筑波大学 大学院システム情報研究科教授）
- ・ 依田高典（京都大学大学院経済学研究科教授）
- ・ 竹内幹（一橋大学大学院経済学研究科准教授）

◆評価日：平成 28 年 6 月～7 月

### ◆評価結果まとめ

#### 研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

評価	コメント
<b>1. 研究体制について</b>	
○研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップについて（5段階）	
5（特によい）	問題なし
5（特によい）	プロジェクト管理が特によいことは、初年度プロジェクトの進捗状況から判断できる。例えば、新しく拠点を立ち上げ、開放型実験拠点にするために不可欠となる実験室の運用規定を早期に策定した点や、実験室の活発な利用状況（延べ 14 の研究グループが年間 110 回の実験（参加者延べ 1982 名）を行った）等は、周到的な管理計画が結実したものであろう。今後は、相乗効果が生かされる拠点としての研究コミュニティの一体感が醸成される段階に向けた活動が期待される。
5（特によい）	プロジェクト全体の遂行に関し、自治体との交渉、ワークショップの企画、被験者リクルーティング、実験研究に至るまで、代表自ら中心的役割を果たしている。
○研究員の活動状況、各メンバーの役割、共同研究の実施について（5段階）	
5（特によい）	問題なし。プロジェクトの経過と共に、就職活動に向けて両立できるように。
4（よい）	プロジェクトメンバーが著者となった発表論文が 21 件とあり、十分に評価ができる水準である。共同研究の体制も、計画よりも早期にオープンラボトリ化を実現させたこともあり、今後も大きく展開していくことが推察される。共同研究が、拠点の軸となっている高齢者の意思決定支援を中心にすすめるのか、それとも、そうした枠組みをこえた大きな研究テーマが軸となっていくのか、長期的視座に立ったプロジェクトの在り方の再構成も必要となると考えられる。
4（よい）	年 110 回の実験を実施しており、非常にアクティビティが高い。まもなく投稿、出版しそうな研究も増えている。

<b>2. 研究施設について</b>	
○研究を実施する十分な研究施設を備えているか。(3段階)	
3 (よい)	外部実験向け簡易実験(タブレットPC)に期待する。ラボ実験を一般人を対象に実施する「人工型フィールド実験」を進めることが望まれる。
3 (よい)	2015年度の研究実績や実験実施状況をみるに、施設については万全であることがわかる。
3 (よい)	実験の頻度も非常に高く、学生、社会人の被験者プールの管理も国内外で群を抜いている。
<b>3. 研究成果について</b>	
○申請時の研究計画にそった進捗が認められるか。(5段階)	
5 (特によい)	研究計画に沿ったフィールドの構築、実験協力者プールの構築は順調に進んでいる。
5 (特によい)	高齢者を対象とした経済実験の実現化が要諦であったところ、現実的な手筈でプロジェクトを進捗させており、プロジェクトチームの実行力と管理能力が奏功している。
4 (よい)	—
○研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。(5段階)	
4 (よい)	十分な実験プールの形成に関して、順調に進んでいる(社会人500名、大学生2000名)。実験協力者に対して、行き届いたサーベイ質問、社会選好の実験も順調に進んでいる。3年目にこうした土台作りが終了し、4、5年目に成果の創出が求められる。社会問題解決あるいは学問的インパクトの高い成果に向けて、今後も取り組むことが期待される。
4 (よい)	高齢者の意思決定支援という政策応用にかんがみれば研究成果の発表の場が国内学会中心になる必然性はあるものの、国際学会や、国際的評価の高い学術誌への公刊が可能であるはずなので、今後は、そうした国際的展開を強く目指すことがより一層期待される。そうしたレベルの高い研究成果の蓄積によって、関西大学経済実験センターは、日本国内ひいてはアジア・オセアニア地域における実験経済研究の拠点になっていくはずであり、そのことによって高齢社会の政策研究に有意義な還元がなされるであろう。
5 (特によい)	2年目にして、既に多くの実験研究の拠点になりつつある。学内外の研究プロジェクトの数も多い。特に社会人を被験者とした実験については、世界的にも稀少な研究環境を提供している。また、研究トピックとしては、自治体との共同研究が特徴的で、生駒市とのプロジェクトでは政策提言の実験研究の利用が非常に良く機能している。

## 外部評価結果（平成30年実施）

研究組織名 関西大学経済実験センター

研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
小川 一仁	社会学部	教授

### ◆外部評価委員

- ・ 秋山英三（筑波大学大学院システム情報研究科 教授）
- ・ 依田高典（京都大学大学院経済学研究科 教授）
- ・ 竹内幹（一橋大学大学院経済学研究科 准教授）

◆評価日：平成30年6月

### ◆評価結果まとめ

#### 研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

評価	コメント
<b>1. 研究体制について</b>	
○研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップについて（5段階）	
5（特によい）	研究代表者としての役割は十分に果たされている。
5（特によい）	関西大学経済実験センターを短い期間で、国内有数の経済実験施設に育て上げた。
5（特によい）	当該拠点で行われた報告（研究）件数、延べ数千人を集めた経済実験規模、プロジェクト構成員による研究成果、いずれも卓越した水準である。
○研究員の活動状況、各メンバーの役割、共同研究の実施について（5段階）	
5（特によい）	－
5（特によい）	－
5（特によい）	－
<b>2. 研究施設について</b>	
○研究を実施する十分な研究施設を備えているか。（3段階）	
3（よい）	－
3（よい）	－
3（よい）	高齢社会にあつて経済実験を政策提言につなげていく方針は特に有意義であり、その役割を担う施設として十分である。

3. 研究成果について	
○申請時の研究計画にそった進捗が認められるか。(5段階)	
5 (特によい)	—
5 (特によい)	—
4 (よい)	—
○研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。(5段階)	
5 (特によい)	権威のある国際ジャーナルからの出版が、増加傾向にあり、非常に高く評価できる。継続的な支援をする価値が十分にあると判断できる。
5 (特によい)	国内外の査読付き論文誌に研究成果が順調に掲載されている。実験室の稼働率も国内トップクラスで、セミナーも含め、非常に活発な研究活動が行われている。
5 (特によい)	学外メンバーを通じながら、広範な利用実績が蓄積されており、ネットワークの広がりが今後も続いていくと思います。



速報 > 地域ニュース > 東北 > 記事

## 山形・西川町民「関西人より利他的」 関西大が実験結果報告

2017/3/11 7:00



「山形県西川町の住民は、関西の人たちより利他的」――。関西大学の調査でこんな結果が得られ、9日、同町で中間報告された。西川町は昨年7月、「西川版幸福指標」づくりを目指して「西川町里山社会・文化研究所」を立ち上げており、その一環として関西大が調査。町民の他人に対する優しさが評価された。

調査は、行動経済学の「独裁者ゲーム」という実験。2人1組で独裁者役と受取人役に分かれ、独裁者が自由に分配できるお金をいくら相手に渡すかを調べることで、自分を犠牲にして他人のために資する「利他性」を測定できるとされる。

西川町の住民は、お金の平均47%を他人に渡したのに対し、関西人の場合は30%、関西大の学生は17%しか渡さなかった。西川町では半額を渡す人が最多だったのに対し、関西大の学生は1銭も渡さないが最多だった。

調査した小川一仁教授は「西川町の人たちが関西の人たちよりも利他的であることを示すデータで、利他的な行動規範が根付いている可能性がある」としている。同町は「地域の宝」である「人柄のよさ」を裏付けるデータの一つになるとみている。



< 電子版トップ < 速報トップ

### 関連キーワードで検索

関西大学、西川町里山社会・文化研究所、小川一仁、西川町

日経電子版ビジネスフォーラム採録「DXで変わる新時代の企業戦略」/NTT Com

鹿児島県の限界集落“ロケットの町”から“ロボットの町”へ？/日経BP特集  
マンションを知り尽くした大手7社が集結したマンションサイト【メジャー7】  
八塩圭子が行く進出企業訪問記。ジョイフル本田の事業用地戦略/UR都市機構  
三井不動産レジデンシャルの提案：新しい都心の暮らし方「パークタワー晴海」  
自分を磨け「粋な男」のスペシャルツアー/アメリカン・エキスプレス

日経電子版特集 [PR]

**TOKYO GARDEN PROJECT**

東京メトロ丸の内線5分  
「南阿佐ヶ谷」駅 徒歩5分  
Marunouchi Line

第一種低層住居専用地域

善福寺川緑地 完成予想図

職住近接の利便性と豊かな自然の両立。  
都市生活の新しいかたちとは？

PROUD プラウドシティ阿佐ヶ谷 野村不動産 安藤ハザマ

### 主要ジャンル速報

#### 経済

J P X日経中小型指数、1万2787で始まる 13...  
2月企業物価、1.0%上昇 前月比は0.2%上昇  
1月の機械受注3.2%減 市場予測下回る  
日・サウジ、経済協力深化 企業進出へ特区

#### 企業

J X、アラムコと製油所 サウジでの提携検討  
東芝、東芝テック株売却へ POSレジ最大手  
第一生命、健康なほど保険料安く 異業種と開発  
トヨタのベア、前年下回る1300円 家族手当で...

日経平均(円) 3/13 9:13	19,592.88	-11.73	-0.06%
NYダウ(ドル) 3/10 終値	20,902.98	+44.79	+0.21%
日経アジア300 3/13 9:13	1,123.38	+1.65	+0.14%
ドル(円) 3/13 8:53	114.76-77	-0.64円高	-0.55%
ユーロ(円) 3/13 8:53	122.67-71	+0.44円安	+0.35%
長期金利(%) --	--		
NY原油(ドル) 3/12 20:03	48.01	-0.48	-0.98%

日経平均について (銘柄一覧) Quick

FUJITSU

お客様のデジタル革新を加速する

**MetaArc**

メタアーク

**日経からのお知らせ**

来春の新入社員を募集 記者など4職種

**日経電子版の活用方法**

【週末新紙面】宅配+電子版お試し実施中！

**おすすめ情報**

- 国公立二次 後期試験の問題・解答 **大学入試速報**
- プロが教える おいしい東京のホテル朝食 **トラベル**
- 和洋中まるごと楽しむ横浜のお店選び **レストラン**
- タカタとパロマ問題に共通する「誤解」 **BizGate**
- 夏も冬も、札幌で遊びつくせ！ **ゲーテ**
- 年収1000万円は序章にすぎない... **エグゼクティブ**
- 社員の英語力、嘆く前に研修の見直し **English**
- 感動する「劇的ネーミング」の作り方 **BizGate**

### [PR]トレンドウォッチ 一覧

**新着**

- 田崎真也のメルセデス・ベンツ最新ワゴン評価
- 機動力と礼節を兼ね備えた超軽量ビジネスバッグ
- 男は70歳からと語る、光のソムリエの健康管理

**ビジネス**

- IoTで意外な存在感を發揮する通信大手の強み
- 業界トップ企業グループが直面した壁の壊し方
- 誰一人取り残さない、持続可能な世界をつくる

**暮らし**

- セルフメディケーション税制の仕組みと活用法

## 西川・経済行動調査の中間報告

# 「施し」は町民の美德

**西川** 西川町の住民を対象に、関西天(大阪府)が昨年8月から行ってきた経済行動調査の成果中間報告会が、同町の交流センターで開かれた。簡単なゲームから住民の利他性を測定するという調査から得られた結果が発表され、大阪府と比べて同町住民は「利他的」であることが分かった。町は第6次総合計画の中で掲げる「西川版幸福指標」創設に向けた客観的な裏付けとして役立てていく。

## 町「幸福指標」への裏付けに

調査は昨年8月、11月、小川一仁教授が発表。分今年3月の計3回行われ、配額が多いほど利他的で、90人超の町民が参加。ある傾向が強い結果となお金を渡す側と受け取ることを説明した上で、側は2人1組になり、渡す側が2千円を持って、大阪府北部地域で行った実験結果と比較。大阪府が根付いているとした場合、いくら渡すのか、部で平均分配額が595円であったのに対し、西は異なる特徴がある」と

成果報告会は同大社会学部経済実験センターの川は同943円と分配額が多い結果となった。報告会は幸福指標の創



町民を対象にした経済行動調査の結果を報告する  
関西大社会学部経済実験センターの小川一仁教授  
(左) 西川町交流センター

設に向け、地元で暮らす業として9日に開催。同ことこの価値観を見詰め直大は引き続き、今後も町すための組織「里山社会の有効な施策実現につな・文化研究所」の主催する調査を行っていく。

## 市民公開講座

第13回 ひと・健康・未来シンポジウム2016 浜松

# 加齢を知る、 老いを健やかに

2016年 **12月3日** ㊥ 13:00～16:30 (12:30開場予定)

**アクトシティ浜松 コンgressセンター4階41会議室**

定員400名(自由席) 参加費/無料(事前のお申し込みが必要です)

老いは誰にでも訪れます。しかし、どう迎えるかは人それぞれです。  
では、老いとはいつからはじまり、どういう状態を云うのでしょうか、  
準備や心構えは必要でしょうか。

老いは幕引きと考える人がいますが、本当にそうでしょうか。

例えば、老いは始まりと考えるのはどうでしょうか。

このシンポジウムでは3つの観点(自然科学的、経済学的、医療・心理学的)から  
「老い」を考えます。

## 開会挨拶

### 自然科学的観点から

### 老化のメカニズム：健康長寿の実現のために

千葉 卓哉(早稲田大学人間科学学術院 教授)

### 経済学的観点から

### 高齢者の経済行動：「振り込め詐欺」などに遭わないために

小川 一仁(関西大学社会学部 教授)

### 医療・心理学的観点から

### 長寿の生涯の健康と生きがい

奈倉 道隆(東海学園大学名誉教授、介護福祉士・老年科医)

## 総合討論

コーディネーター

河田 照雄(京都大学大学院農学研究科 教授、公益財団法人ひと・健康・未来研究財団 理事)

### 参加受付

2016年11月30日(水)までに、氏名(ふりがな)・連絡先を明記の上、FAXまたはE-mailにて下記までお申込み下さい。締切日前でも定員に達した場合はお断りする場合がございます。締切日を過ぎた場合は、下記事務局までお電話にてお問合せ下さい。

公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団

事務局(担当：森田 直子)

TEL&FAX 075-212-1854

E-mail hitokenkoumirai@jnhf.or.jp



〈電車でご来場の場合〉JR浜松駅からは徒歩で5～10分程です。

〈お車でご来場の場合〉有料駐車場となります。

# 加齢を知る、 老いを健やかに

2017年 7月15日(土) 13:00~16:30

ホテル広島サンプラザ 3F 「金銀星」

広島市西区商工センター3丁目1番1号 TEL 082-278-5000

定員400名(自由席) **参加費/無料** (事前のお申し込みが必要です)

老いは誰にでも訪れます。しかし、どう迎えるかは人それぞれです。  
では、老いとはいつからはじまり、どういう状態を云うのでしょうか、  
準備や心構えは必要でしょうか。

老いは幕引きと考える人がいますが、本当にそうでしょうか。

例えば、老いは始まりと考えるのはどうでしょうか。

このシンポジウムでは3つの観点(自然科学的、経済学的、医療・心理学的)から  
「老い」を考えます。

## 開会挨拶

### 自然科学的観点から

老化はなぜおこるのか：健康長寿の実現のためにできること

千葉 卓哉 (早稲田大学人間科学学術院 教授)

### 経済学的観点から

高齢者・流動的知性・経済的意思決定

小川 一仁 (関西大学社会学部 教授)

### 医療・心理学的観点から

長寿の生涯の健康と生きがいー老年学・介護福祉の立場からー

奈倉 道隆 (東海学園大学 名誉教授、介護福祉士・老年科医)

## 総合討論

コーディネーター

河田 照雄 (京都大学大学院農学研究科 教授、公益財団法人ひと・健康・未来研究財団 理事)

### 参加受付

参加ご希望の方は、FAXまたはE-mailでお申し込みください。  
お名前(ふりがな)・連絡先(FAX番号またはE-mailアドレス)を必ずご記入  
ください。

定員になり次第締め切らせていただきます。ご不明な点はお電話にてお問い合わせ  
ください。

公益財団法人ひと・健康・未来研究財団

事務局(担当:森田直子)

TEL&FAX 075-212-1854

E-mail hitokenkoumirai@jnhf.or.jp



〈電車でご来場の場合〉JR新井口駅より徒歩5分、広島電鉄(宮島線)商工センター入口より徒歩5分

〈お車でご来場の場合〉山陽自動車道五日市ICより約10分

## 公開講座

## 「経済行動調査」研究成果報告会

いまや、高齢の方は我が国の経済活動の重要な担い手となっています。本学経済実験センターでは、年齢を経るにつれて他者への寄付が増えるかどうか、他者に対して平等な扱いをするかどうかに関するデータなどを収集いたしました。今回は、そのうち、2015年から17年にかけて行った調査の研究成果報告会を開催いたします。

午前の部 11:00～12:30 講演者 小川一仁 (社会学部教授)  
「高齢者は他人に優しい？ - 寄付実験から見える考察 -」

午後の部 14:30～16:00 講演者 川村哲也 (経済実験センターPD)  
「高齢者は平等主義者？ - 分配実験から見える考察 -」

日時 2017年 7月29日 (土) 午前の部 11時00分～12時30分  
午後の部 14時30分～16時00分

会場 関西大学 梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8階 大ホール  
〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1番5号  
1階にスターバックスコーヒーとTSUTAYA BOOK STOREが入っている建物です。  
駐車場、駐輪場はございません。

定員 80席 当日空席がある場合は事前申込無しでも参加いただけます

対象者 どなたでも参加いただけます。  
(ただし、お聞きいただいた講座の実験には参加できなくなります)

聴講無料・事前申込要

お申込み・お問い合わせ：関西大学 経済実験センター

E-mail cee@ml.kandai.jp

住所 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

URL <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/>

Tel/Fax 06-6368-1228 / 06-6330-3304



お申込みは、右記のQRコードにアクセスしていただくか、氏名（フリガナ）・住所・電話番号・参加希望日時を記載の上、電子メール、はがき、FAXのいずれかでお申込みください。（定員：先着80名）

※お問い合わせ先は、講座当日は繋がりません。当日のキャンセル連絡は不要です。



# 公開講座

‘18. **8/4** (土)

開催日時

11:00～15:30

【会場】関西大学 梅田キャンパス  
KANDAI Me RISE 8階 大ホール  
大阪府大阪市北区鶴野町1番5号

1階にスターバックスコーヒーとTSUTAYA BOOK STOREが入っている建物です。駐車場、駐輪場はございません。

【対象者】どなたでも参加いただけます

【定員】各回80名

参加料  
**無料**

事前申込  
**不要**



11:00～12:30

## 誰が他人とどのように協力するの？

関西大学社会学部教授

小川一仁 経済実験センター長

人々の協力は組織や学校、地域の現場で必要不可欠です。関西大学経済実験センターで実施しました調査に基づき、本講座ではどのような人が協力的なのか、どのようにして他人と協力するのかをお話します。

14:00～15:30

## 詐欺的・ボッタクリ金融商品から身を守るには？

関西大学経済学部教授

本西泰三 ソシオネットワーク戦略研究機構長

私たちが人生設計を考えるうえで、金融知識は極めて重要なものですが、ほとんどの人にはこれを十分に学ぶ機会が与えられていません。このため、こうした無知に付け込む金融商品が後を絶たないのが実情です。関西大学が実施した、人々の金融行動と金融リテラシーに関する全国調査などに基づいて現状を分析し、金融リテラシーを高め、悪質商法から身を守る方法について報告します。

共催／関西大学経済実験センター 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構 文部科学大臣認定共同利用・共同研究拠点

お問い合わせ／E-mail [cee@ml.kandai.jp](mailto:cee@ml.kandai.jp) / TEL (06)6368-1228

<http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/>

受付時間：月～金 9:00～17:00 / 開催日はメール対応のみ